第１回 長崎市中部下水処理場跡地活用検討委員会

日時：令和８年７月６日（月）13：00～15：00
場所：長崎市役所　第１委員会室（5F）

式　次　第

１．開会
２．挨拶
３．委員紹介
４．委員会の設置について　資料１、資料２、資料３
５．委員長及び副委員長の選出
６．報告
（1）平和公園スポーツ施設の再配置について資料４
（2）審議の内容とスケジュール資料５
７．議事
（1）中部下水処理場跡地活用に関する意見交換資料６、資料７
（2）アンケート調査の内容について資料８
８．閉会

配付資料
・式次第、出席者名簿、座席表
・資料１　委員会の設置について
・資料２　委員会規則、委員名簿
・資料３　委員会の運営について
・資料４　平和公園スポーツ施設の再配置について
・資料５　審議の内容とスケジュール
・資料６　跡地の現状
・資料７　跡地活用の考え方について
・資料８　アンケート調査の内容について

資料１

「長崎市中部下水処理場跡地活用検討委員会」の設置について

１　設置目的

中部下水処理場跡地は、長崎駅および浦上駅から近くにあり、市街地中心部の長崎スタジアムシティに隣接し、市民のみならず多くの方々に利用されることが想定される本市にとって重要な未利用地となっている。

このような中、長崎市民総合プールを市営陸上競技場（松山町）に移転し、陸上練習機能（400ｍトラック）を中部下水処理場跡に移転とすることを決定しており、今後の予定として、陸上練習機能以外の土地活用に関して、市民の憩いの場、防災空間、イベントへの活用など多機能に利用できる多目的広場を整備し、文化施設・スタジアム・商業施設・住宅等の周辺施設との連携による相乗効果を生み、長崎都心まちづくり構想と整合がとれた空間づくりに向けた整理、検討を進めることを目的としている。

そのため、跡地活用に係る整備構想の策定に当たっては、多様な関係者や関係機関の参画のもと、審議を行うべきであることから、「長崎市中部下水処理場跡地活用検討委員会」を設置するものである。

なお、本委員会は、地方自治法第 138 条の 4 第 3 項※1の規定により設置する市の附属機関である。

> **※１：地方自治法第 138 条の 4 第 3 項**
> 普通地方公共団体は、法律又は条例の定めるところにより、執行機関の附属機関として自治紛争処理委員、審査会、審議会、調査会その他の調停、審査、諮問又は調査のための機関を置くことができる。ただし、政令で定める執行機関についてはこの限りでない。

２　委員会の概要

⑴ 設置年月日

令和８年６月１日

⑵ 委員の任期

「２年」又は「委嘱の日から調査審議結果の市長への報告が終了する日」のいずれか早い日まで

⑶ 委員の構成

学識経験者、商工業・スポーツ・教育・障害者・地域活動団体代表者、近隣施設代表者　全１０名（別紙名簿参照）

⑷ 担任事務

中部下水処理場跡地の活用に関する重要事項の調査審議に関すること

⑸ 開催回数

検討委員会：３回（予定）

ワークショップ：２回（予定）

資料２

長崎市中部下水処理場跡地活用検討委員会規則

令和８年３月24日
長崎市規則第52号

（趣旨）

第１条　この規則は、長崎市附属機関に関する条例（昭和２８年長崎市条例第４２号）第３条の規定に基づき、長崎市中部下水処理場跡地活用検討委員会（以下「委員会」という。）について、必要な事項を定めるものとする。

（組織）

第２条　委員会は、委員１１人以内で組織する。

２　委員は、次に掲げる者のいずれかのうちから市長が委嘱する。

⑴　学識経験のある者

⑵　商工業関係団体を代表する者

⑶　スポーツ関係団体を代表する者

⑷　教育関係団体を代表する者

⑸　障害者団体を代表する者

⑹　地域活動団体を代表する者

⑺　近隣施設を代表する者

⑻　市民

３　市長は、前項第８号に掲げる委員の選任に当たっては、公募の方法により、これを行うものとする。

（任期）

第３条　委員の任期は、２年又は委嘱の日から第７条の規定による報告が終了する日のいずれか早い日までとする。

２　委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

３　前条第２項第２号から第７号までに掲げる者のうちから委嘱された委員が、それぞれ同項の相当規定に該当する者でなくなったときは、前２項に定める任期中であっても、当該委員の委嘱は解かれたものとする。

（委員長及び副委員長）

第４条　委員会に、委員長及び副委員長１人を置き、委員の互選によりこれを定める。

２　委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

３　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

（会議）

第５条　委員会の会議は、委員長が招集し、その議長となる。

２　委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。

３　委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（関係人の出席等）

第６条　委員会は、必要があると認めるときは、関係人の出席を求め、その意見若しくは説明を聴き、又は関係人に資料の提出を求めることができる。

（結果報告）

第７条　委員長は、調査審議が終わったときは、速やかにその結果を市長に報告しなければならない。

（庶務）

第８条　委員会の庶務は、土木部土木企画課において処理する。

（委任）

第９条　この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附　則

（施行期日）

１　この規則は、令和８年６月１日から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。

（準備行為）

２　公募の方法による委員の選任に関し必要な手続は、この規則の施行前においても行うことができる。

委員名簿

令和８年６月１日時点

（区分順）

区分	所　属	職　名	氏　名
学識経験のある者	長崎大学　総合生産科学域（環境科学系）	教授	渡邊（わたなべ）　貴史（たかし）
	活水女子大学　健康生活学部　生活デザイン学科	教授	毛利（もうり）　洋子（ようこ）
商工業関係団体を代表する者	長崎商工会議所　都市整備委員会	副委員長	谷川（たにがわ）　喜一（きいち）
スポーツ関係団体を代表する者	（公財）長崎市スポーツ協会	会長	渡辺（わたなべ）　雄児（ゆうじ）
教育関係団体を代表する者	長崎市私立幼稚園・認定こども園 PTA 連合会	会長	髙津（こうづ）　愛美（めぐみ）
障害者団体を代表する者	（一社）長崎市心身障害者団体連合会	事務局長	川瀬（かわせ）　朋章（ともあき）
地域活動団体を代表する者	銭座校区連合自治会	会長	富澤（とみざわ）　隆幸（たかゆき）
	（一社）長崎青年会議所	理事長	寺澤（てらさわ）　孝憲（たかのり）
近隣施設を代表する者	（株）リージョナルクリエーション長崎	まちづくり連携ﾘｰﾀﾞｰ	中﨑（なかざき）　謙司（けんじ）
	（株）みらい長崎　総務業務部	部長	厚地（あつち）　純也（じゅんや）

資料３

「長崎市中部下水処理場跡地活用検討委員会」の運営について

長崎市中部下水処理場跡地活用検討委員会規則第９条
　この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

１　会議の公開、非公開

【長崎市附属機関の会議の公開に関する要領】

３　附属機関の会議の公開基準

附属機関の会議は、次に掲げる場合を除き、公開するものとする。

⑴ 法令等の規定により当該会議が非公開とされている場合

⑵ 長崎市情報公開条例第７条各号に定める非公開情報に該当するものについての審議等を行う場合

⑶ 公開することにより、公正又は円滑な会議の運営が阻害され、又は会議の目的が達成できなくなると認められる場合

４　公開・非公開の決定

⑴ 附属機関の会議の公開又は非公開の決定は、前項第１号の場合を除き、同項に定める基準に基づき、当該附属機関が、その会議において行うものとする。（以下省略）

⑵ 附属機関は、会議の全部又は一部を公開しないことを決定したときは、その理由を明らかにしなければならない。

⑶ 省略

２　会議録の作成等

⑴ 会議録の作成

【附属機関の設置等に関する基準の運用方針】

２－（２）－キー（ア）会議録の作成

会議録は全文記録又は要点記録とし、附属機関等に諮り決定する。

⑵ 会議録の署名

－参考－

長崎市情報公開条例

第７条　実施機関は、公開請求があつたときは、公開請求に係る行政文書に次の各号に掲げる情報（以下「非公開情報」という。）のいずれかが記録されている場合を除き、公開請求者に対し、当該行政文書を公開しなければならない。

（１）法令又は条例(以下「法令等」という。)の規定により、公開することができないとされている情報

（２）個人に関する情報（事業を営む個人の当該事業に関する情報を除く。）であつて、当該情報に含まれる氏名、生年月日その他の記述等により特定の個人を識別することができるもの（他の情報と照合することにより、特定の個人を識別することができることとなるものを含む。）又は特定の個人を識別することはできないが、公にすることにより、なお個人の権利利益を害するおそれがあるもの。ただし、次に掲げる情報を除く。

ア　法令等の規定により又は慣行として公にされ、又は公にすることが予定されている情報

イ　人の生命、健康、生活又は財産を保護するため、公にすることが必要であると認められる情報

ウ　当該個人が公務員等（国家公務員法（昭和 22 年法律第 120 号）第 2 条第 1 項に規定する国家公務員及び地方公務員法（昭和 25 年法律第 261 号）第 2 条に規定する地方公務員並びに地方独立行政法人長崎市立病院機構の役員及び職員をいう。）である場合において、当該情報がその職務の遂行に係る情報であるときは、当該情報のうち、当該公務員等の職及び氏名並びに当該職務遂行の内容に係る部分

（３）法人その他の団体(国及び地方公共団体を除く。以下「法人等」という。)に関する情報又は事業を営む個人の当該事業に関する情報であつて、次に掲げるもの。ただし、人の生命、健康、生活又は財産を保護するため、公にすることが必要であると認められる情報を除く。

ア　公にすることにより、当該法人等又は当該個人の権利、競争上の地位その他正当な利益を害するおそれがあるもの

イ　実施機関の要請を受けて、公にしないとの条件で任意に提供されたものであつて、法人等又は個人における通例として公にしないこととされているものその他の当該条件を付することが当該情報の性質、当時の状況等に照らして合理的であると認められるもの

（４）公にすることにより、人の生命、身体又は財産の保護、犯罪の予防その他の公共の安全と秩序の維持に支障を及ぼすおそれがある情報

（５）実施機関、国及び他の地方公共団体の内部又は相互間における審議、検討又は協議に関する情報であつて、公にすることにより、率直な意見の交換若しくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれ、不当に市民の間に混乱を生じさせるおそれ又は特定の者に不当に利益を与え、若しくは不利益を及ぼすおそれがあるもの

（６）実施機関、国又は他の地方公共団体が行う事務又は事業に関する情報であつて、公にすることにより、次に掲げるおそれその他当該事務又は事業の性質上、当該事務又は事業の適正な遂行に支障を及ぼすおそれがあるもの

ア　監査、検査、取締り又は試験に係る事務に関し、正確な事実の把握を困難にするおそれ又は違法若しくは不当な行為を容易にし、若しくはその発見を困難にするおそれ

イ　契約、交渉又は争訟に係る事務に関し、国又は地方公共団体の財産上の利益又は当事者としての地位を不当に害するおそれ

ウ　調査研究に係る事務に関し、その公正かつ能率的な遂行を不当に阻害するおそれ

エ　人事管理に係る事務に関し、公正かつ円滑な人事の確保に支障を及ぼすおそれ

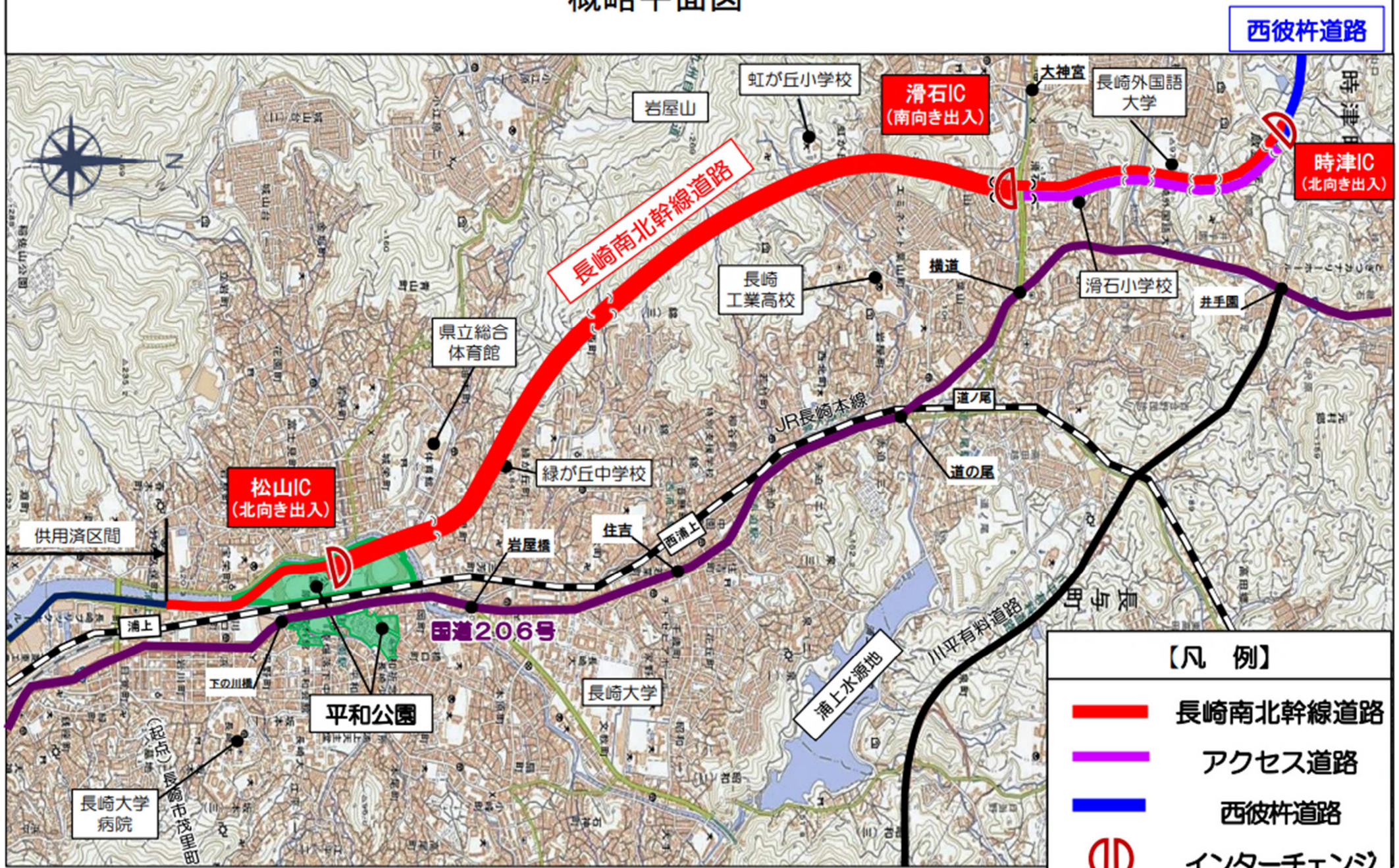
オ　国又は地方公共団体が経営する企業に係る事業に関し、その企業経営上の正当な利益を害するおそれ

資料４

平和公園スポーツ施設の再配置について

（１）長崎南北幹線道路

長崎南北幹線道路（長崎市茂里町～時津ＩＣ）
概略平面図



※インターチェンジ（IC）名は仮称

2025 年 3 月 27 日公表

平和公園スポーツ施設の再配置について

（２）南北幹線道路イメージ図

１）-①　高規格道路 長崎南北幹線道路
茂里町～滑石2丁目（R4～事業中）

写真１

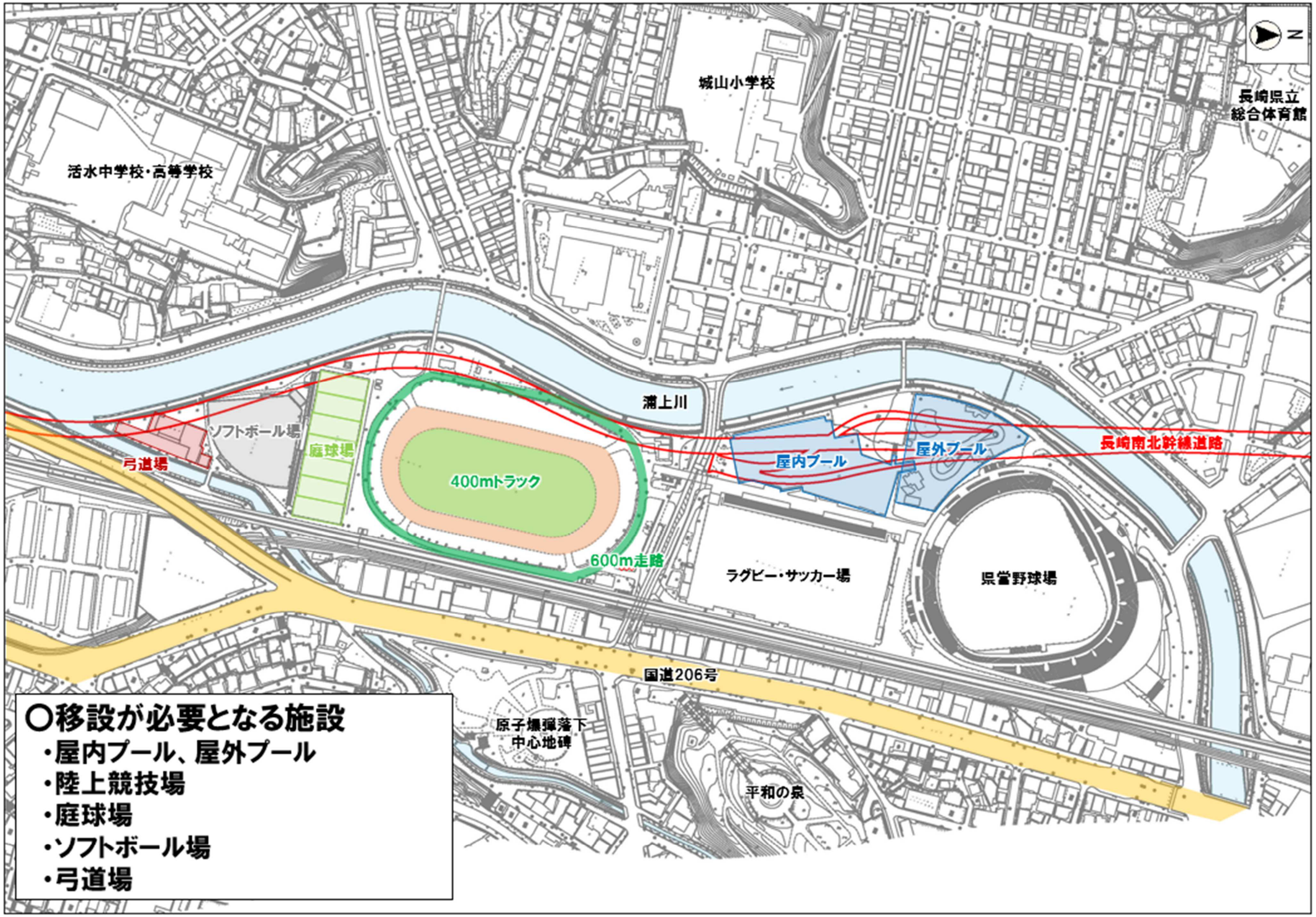


出典：長崎県HP「都市計画道路長崎時津縦貫線の都市計画変更(素案)イメージ動画」より

資料４

平和公園スポーツ施設の再配置について

（３）平和公園（西地区）



平和公園スポーツ施設の再配置について

（４）平和公園スポーツ施設再配置

現在	中部下水処理場（解体工事中）	陸上競技場（400mトラック）	総合プール
再配置後	陸上練習場（400mトラック）	総合プール＋外周路・広場	多目的広場

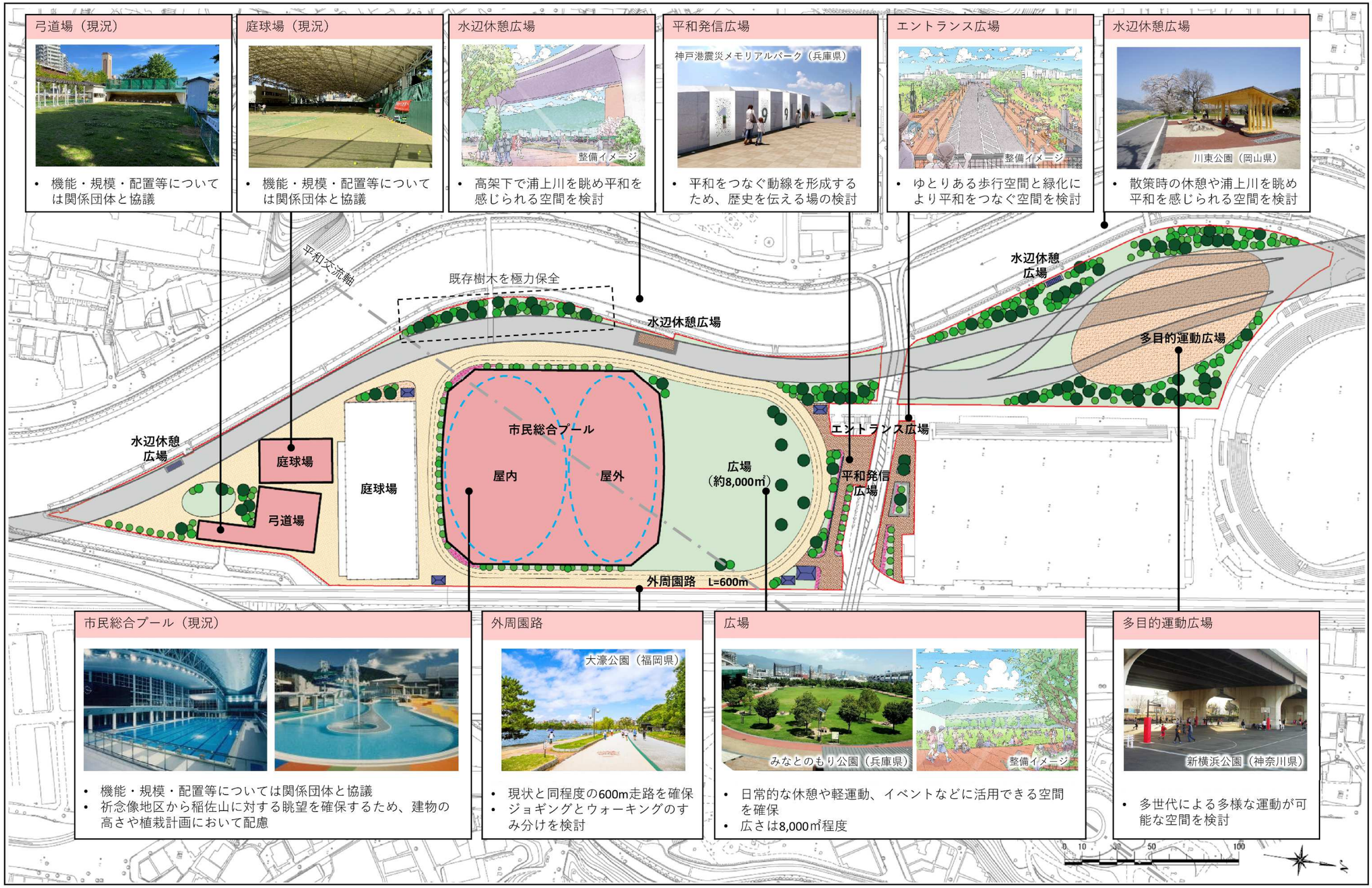


資料４

平和公園スポーツ施設の再配置について

（５）平和公園（西地区）再整備基本計画

平面配置



弓道場（現況）

- 機能・規模・配置等については関係団体と協議

庭球場（現況）

- 機能・規模・配置等については関係団体と協議

水辺休憩広場

- 高架下で浦上川を眺め平和を感じられる空間を検討

平和発信広場

- 平和をつなぐ動線を形成するため、歴史を伝える場の検討

エントランス広場

- ゆとりある歩行空間と緑化により平和をつなぐ空間を検討

水辺休憩広場

- 散策時の休憩や浦上川を眺め平和を感じられる空間を検討

市民総合プール（現況）

- 機能・規模・配置等については関係団体と協議
- 祈念像地区から稲佐山に対する眺望を確保するため、建物の高さや植栽計画において配慮

外周園路

- 現状と同程度の600m走路を確保
- ジョギングとウォーキングのすみ分けを検討

広場

- 日常的な休憩や軽運動、イベントなどに活用できる空間を確保
- 広さは8,000㎡程度

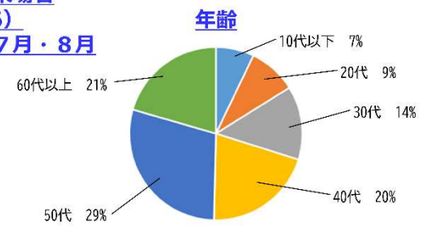
多目的運動広場

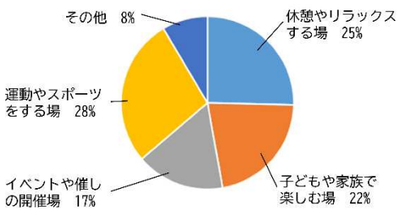
- 多世代による多様な運動が可能な空間を検討

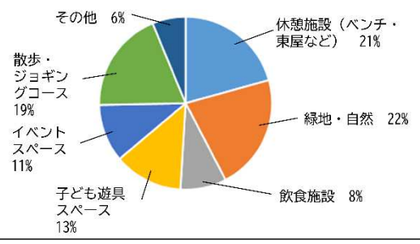
平和公園スポーツ施設の再配置について

（６）アンケート調査結果（令和７年度実施）と整備イメージ

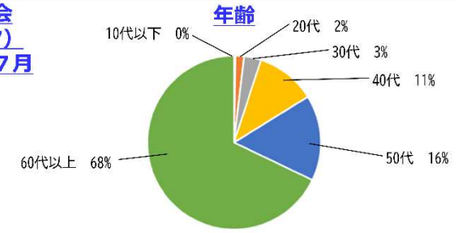
スタジアムシティ来場者
（回答者数n=546）
調査月：令和７年７月・８月

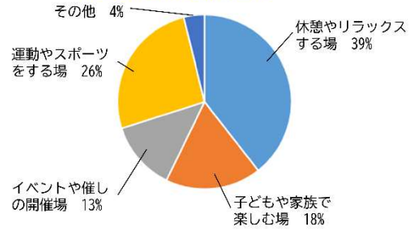


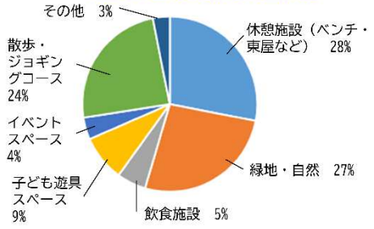




銭座校区連合自治会
（回答者数n=377）
調査月：令和７年７月









※今後の設計により整備内容は変更となる場合があります。また、細部については関係団体との今後の協議により決定します。

資料５

委員会の審議内容・スケジュール等について

１　審議に当たっての前提条件

次の内容を前提として、審議を行う。
　令和７年６月に策定した「平和公園（西地区）再整備基本計画」の第３章「３－５．スポーツ施設の再配置に関する方針」において、松山町の市営陸上競技場について次のとおり方針を示している。

・中部下水処理場跡地へ陸上練習場（400ｍトラック）としての機能を移転する。

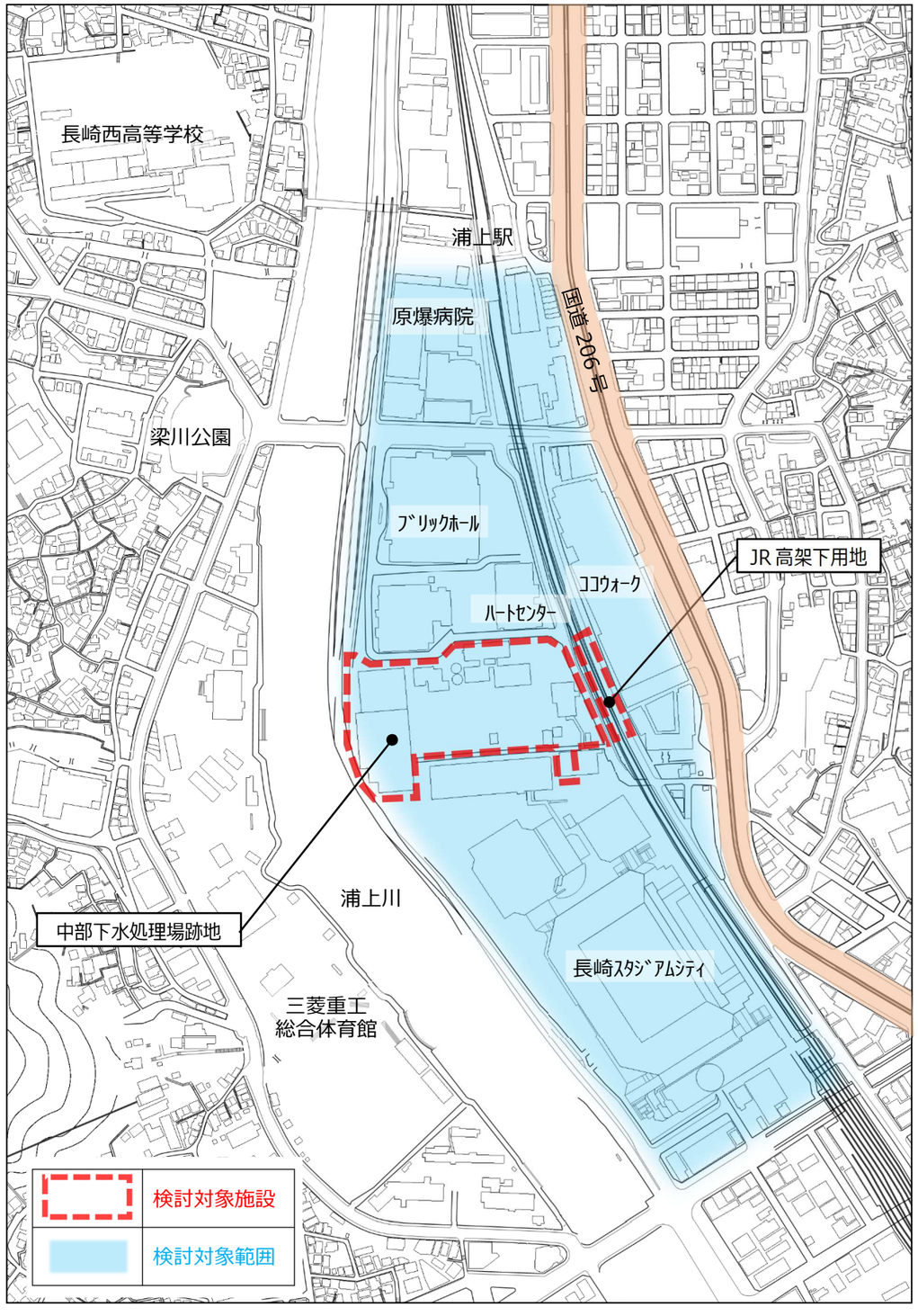
２　審議内容

　上記のとおり陸上練習場機能を確保することを前提としつつ、平坦地が少ない長崎市にとって、都心周辺部にあって一定の面積を有する貴重な当該地を、周辺環境との相乗効果が生まれるような活用が可能な場となるよう、現状や課題等を整理し、次の項目について審議する。

⑴ 基本方針（中部下水処理場跡地のコンセプト）
⑵ 整備方針（ゾーニングとゾーン別整備方針、動線計画、施設など）
⑶ 管理・運営にあたっての留意事項

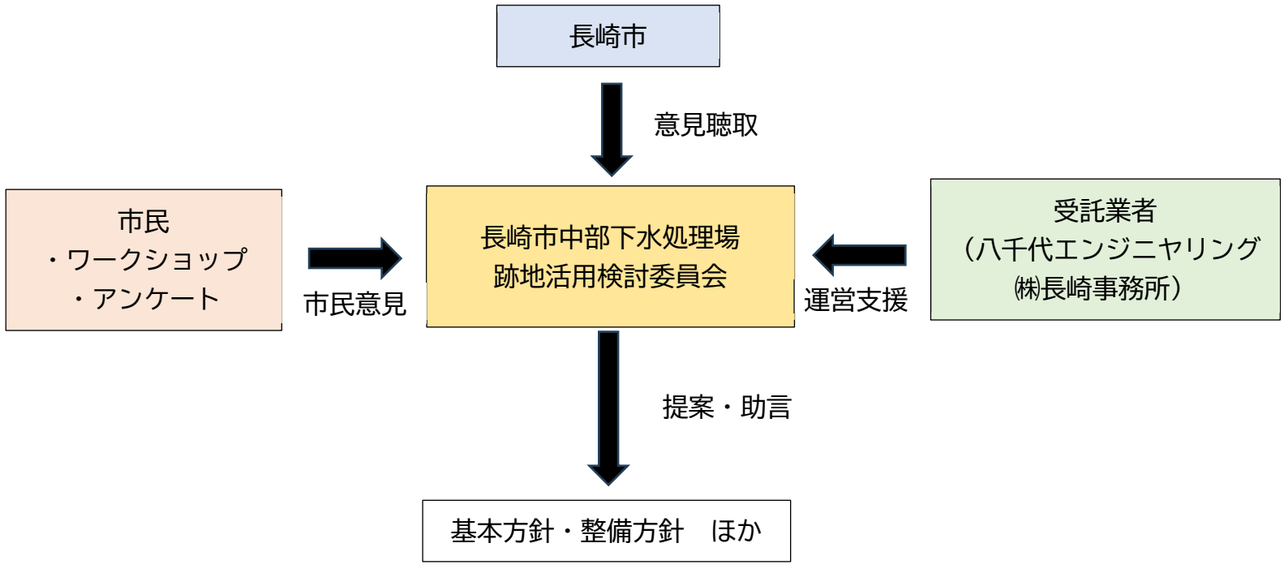
３　検討対象施設

　検討対象施設は、中部下水処理場敷地、JR 高架下協定地（動線計画においては敷地外も検討対象）とする。



審査内容とスケジュール

４　検討体制



（役割）
長崎市：委員会に意見を求める
検討委員会：有識者の立場から議論・提案を行う
市民：市民意見（委員会の検討材料として提供）
受注業者：委員会、ワークショップの運営支援、意見整理、方針等の作成

５　スケジュール（予定）

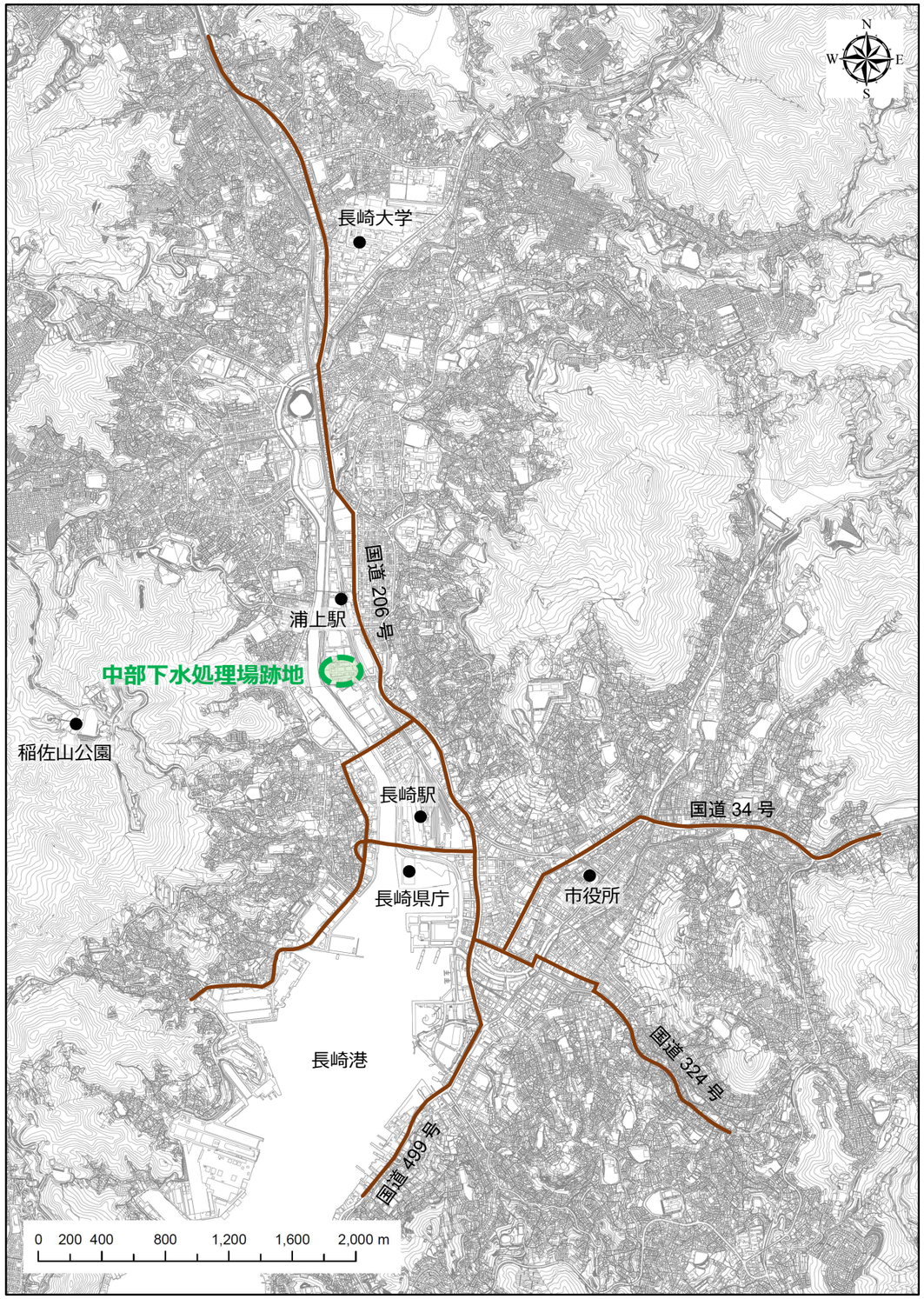
区分	開催時期	調査審議事項
第１回委員会 （今回）	令和８年７月６日	●委員会の設置、正副委員長の選出 ●審議内容・スケジュール等 ●意見交換・アンケート内容の確認
第１回 ワークショップ （WS）	令和８年８月下旬	●経緯・条件等説明 ●グループワーク（課題抽出・アイデア提案）
第２回 ワークショップ （WS）	令和８年10月上旬	●グループワーク（平面図作成） ●発表・意見交換
第２回委員会	令和８年11月中旬	●アンケート結果及びWSの振り返り ●基本方針（案）・整備方針（案）・平面図（案）
第３回委員会	令和９年１月下旬	●基本方針・整備方針・平面図 ●管理・運営にあたっての留意事項 ●とりまとめ

長崎市中部下水処理場跡地活用検討委員会

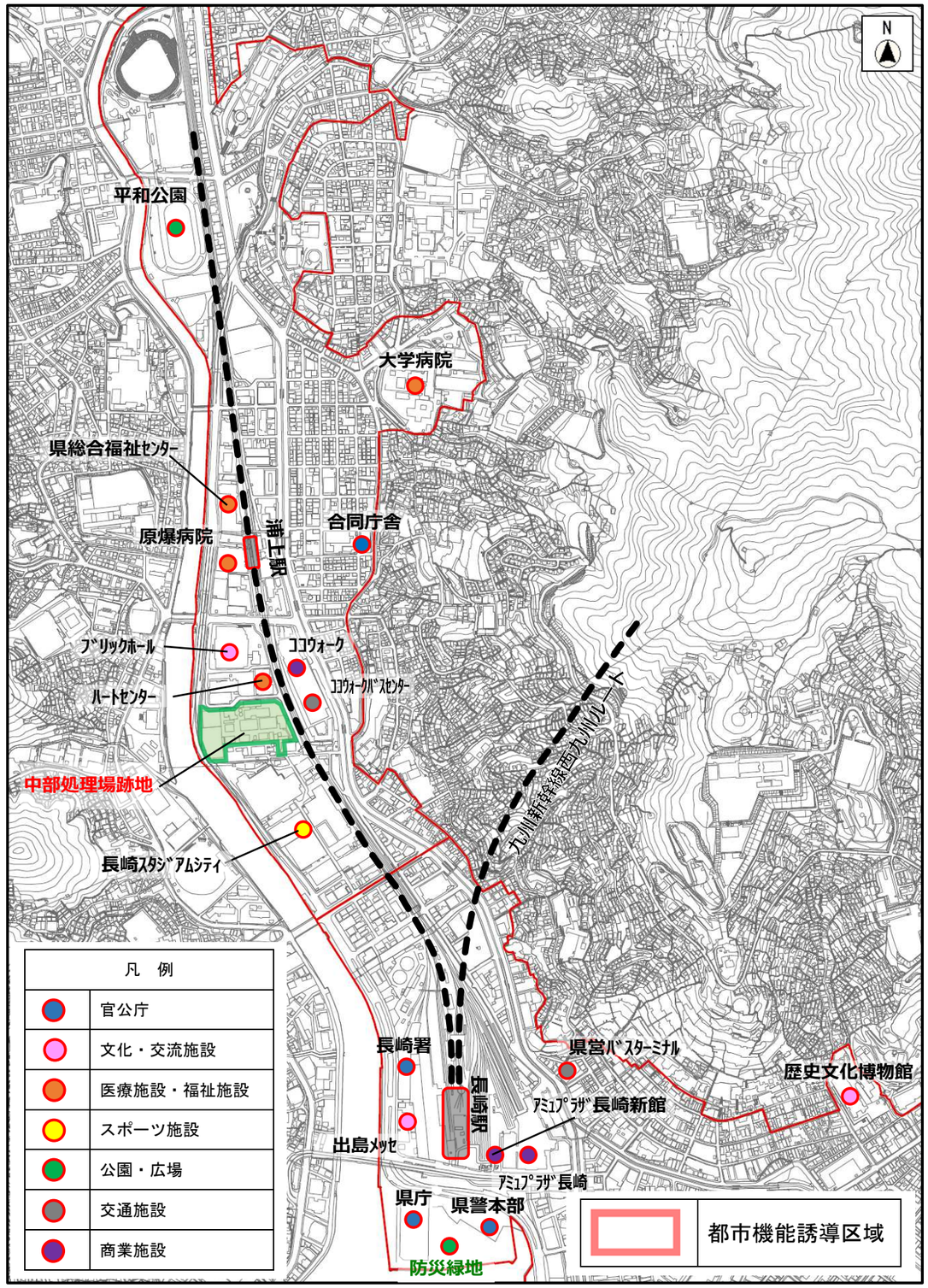
区分	人数	審議の視点、分野、立場
学識経験のある者	２人	【視点】 ・都市計画や広場などに関し、学術的・専門的な知識経験を踏まえた視点 ・都市デザインやまちづくりなどに関し、学術的・専門的な知識経験をふまえた視点 【分野・立場】 ・都市計画や広場、都市デザイン、まちづくりなどについて調査・研究しており、専門的な識見を有するもの
商工業関係団体を代表する者	１人	【視点】 ・地域経済に関する視点 【分野・立場】 ・地域経済の活性化について識見を有し、それを整備に繋げていくための意見を集約できるもの
スポーツ関係団体を代表する者	１人	【視点】 ・スポーツ・レクリエーションに関する視点 【分野・立場】 ・スポーツを行う立場で、施設のあり方について識見を有し、意見を集約できるもの
教育関係団体を代表する者	１人	【視点】 ・利用者の視点 【分野・立場】 ・施設を利用する者の立場で、子どもの育成に携わり施設に求められる意見を集約できるもの
障害者団体を代表する者	１人	【視点】 ・利用者の視点 【分野・立場】 ・施設を利用する者の立場で、障害者に求められる施設について識見を有し、意見を集約できるもの
地域活動団体を代表する者	２人	【視点】 まちづくりの視点及び利用者の視点 【分野・立場】 地域活動を行い、地域のまちづくりについて識見を有し、それを整備に繋げていくための意見を集約できるもの
近隣施設を代表する者	２人	【視点】 近接施設を管理・運営する者の視点 【分野・立場】 施設との連携により、相乗効果を生む空間づくりに繋げていくための意見を集約できるもの
	10人	

跡地の現状

（１）中部下水処理場跡地周辺の施設



図－１　中部下水処理場跡地位置図



図－２　中部下水処理場跡地の周辺施設

跡地の現状

（２）中部下水処理場跡地周辺の公共交通機関の状況

中部下水処理場跡地周辺には、路線バスや路面電車が高頻度で運行されており、公共交通の利便性が高い場所に位置していると言えます。

ア　路線バス

■銭座町長崎スタジアムシティバス停（運行本数）【令和８年４月現在】

区分	都心部向け	郊外向け	合計
平　日（便／日）	679	686	1,365
土　（便／日）	557	560	1,117
日・祝（便／日）	502	501	1,003

※銭座町長崎スタジアムシティバス停は中部下水処理場跡地の南側約０.３ｋｍの地点に立地
※銭座町長崎スタジアムシティバス停より中部下水処理場跡地まで徒歩約４分、車で約２分

イ　路面電車

■スタジアムシティノース電停（運行本数）【令和８年４月現在】

区分	都心部向け	郊外向け	合計
平　日（便／日）	239	167	406
土日祝（便／日）	226	156	382

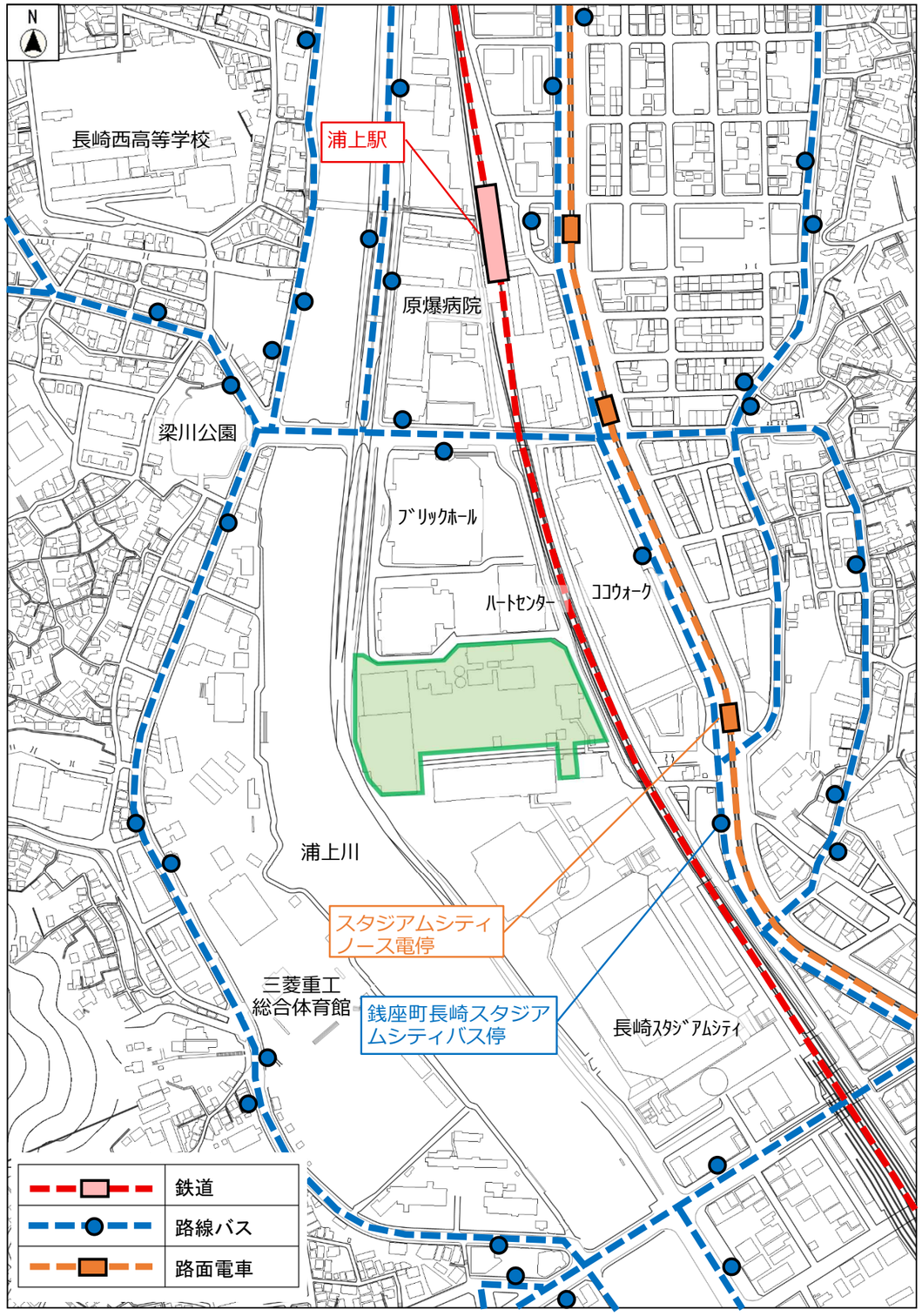
※スタジアムシティノース電停の南側約０.３ｋｍの地点に立地
※スタジアムシティノース電停より中部下水処理場跡地まで徒歩約４分、車で約２分

ウ　鉄道

■浦上駅（運行本数）【令和８年４月現在】

区分	長崎駅向け			諫早駅向け			合計		
	特急	普通	計	特急	普通	計	特急	普通	計
平　日（便／日）	24	50	74	23	58	81	47	108	155
土　（便／日）	29	50	79	27	58	85	56	108	164
日・祝（便／日）	28	50	78	27	58	85	55	108	163

※JR 浦上駅は中部下水処理場跡地の北側約０.６ｋｍの地点に立地
※JR 浦上駅は中部下水処理場跡地まで徒歩約８分、車で約３分



図－３　中部下水処理場跡地周辺の公共交通機関

跡地の現状

（３）中部下水処理場跡地周辺の駐車場の状況

中部下水処理場跡地周辺半径 500m圏内には、1 箇所の公営駐車場、55 箇所の民営駐車場が配置されており、近隣の駐車施設が充実しているため、高い利便性を備えている場所に位置していると言えます。

ア　民営駐車場

■民営駐車場（台数）

区分	駐車場名	駐車可能台数
駐車場（50 箇所）	コインパーキング	616
大規模駐車場（5 箇所）	長崎スタジアムシティ駐車場（立体、商業棟）	934
	みらい長崎ココウォーク駐車場	905
	浦上駅立体駐車場	311
	日本赤十字社 長崎原爆病院立体駐車場	285
	三菱重工総合体育館 駐車場	249
合計駐車台数（55 箇所）		3,300 台

イ　公営駐車場

■施設概要（茂里町駐車場）

区分	供用開始	営業時間	収容台数（台）	
			普通車	軽自動車
地上	令和 3 年	00:00～24:00	123	12

※高さ制限　2.4m

※平成 10 年に整備されていた茂里町地下駐車場については、令和 2 年 10 月末に解体され令和 3 年 2 月から茂里町駐車場として供用開始。

■利用状況（茂里町駐車場）

区分	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
駐車台数(台／年)	25,268	37,208	43,985	51,463

ウ　実態調査結果

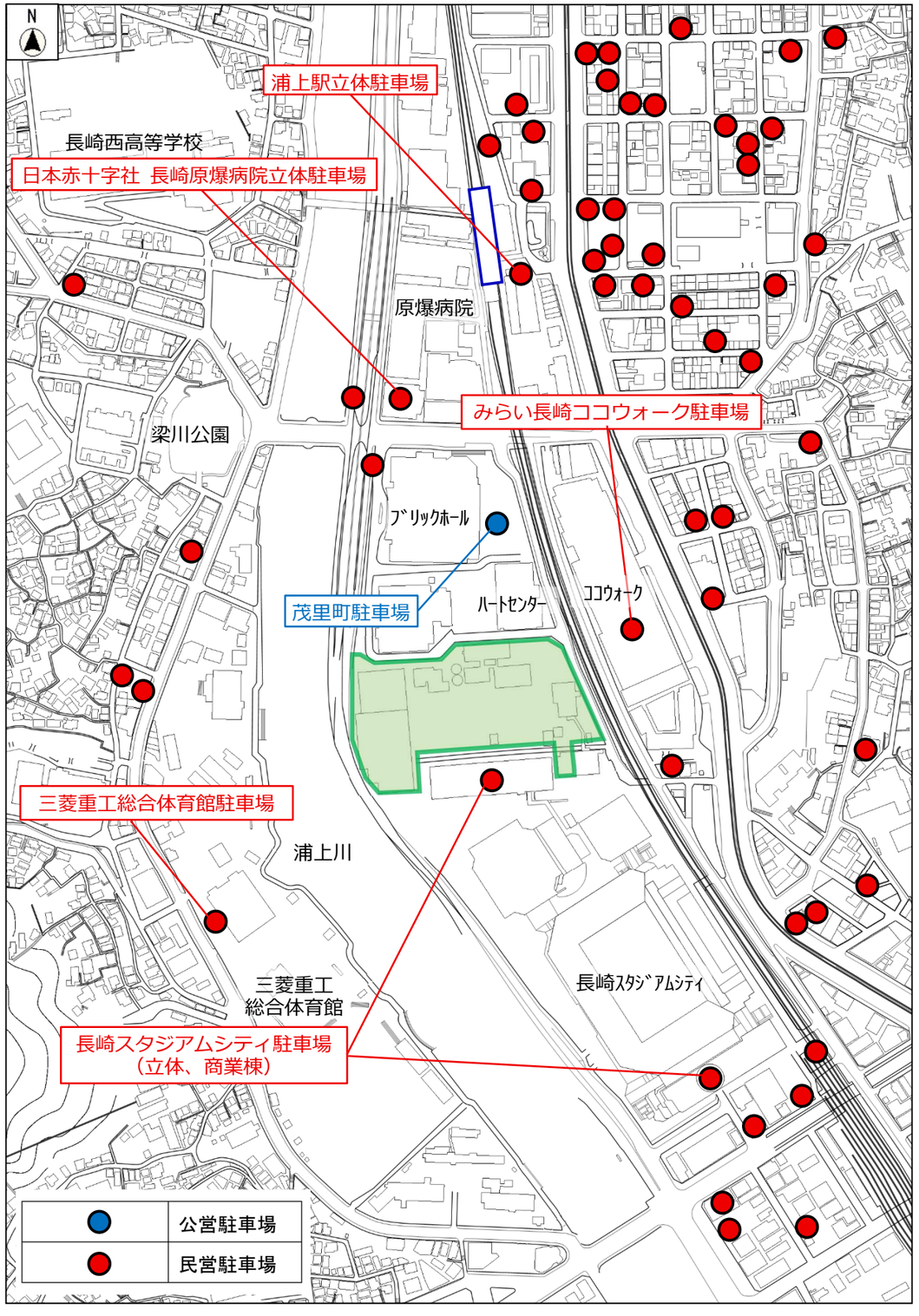
令和 7 年 9 月 25 日のピーク時（13 時）に、茂里町駐車場を中心として、駐車場整備地区における半径 500m 円内の駐車台数および収容台数について実態調査を行いました。

■集計結果

・50 施設（茂里町駐車場含む）

・駐車台数計/収容台数計
1,409 台/3,176 台(約 44%)

・路上駐車台数（タクシー除く四輪）
29 台

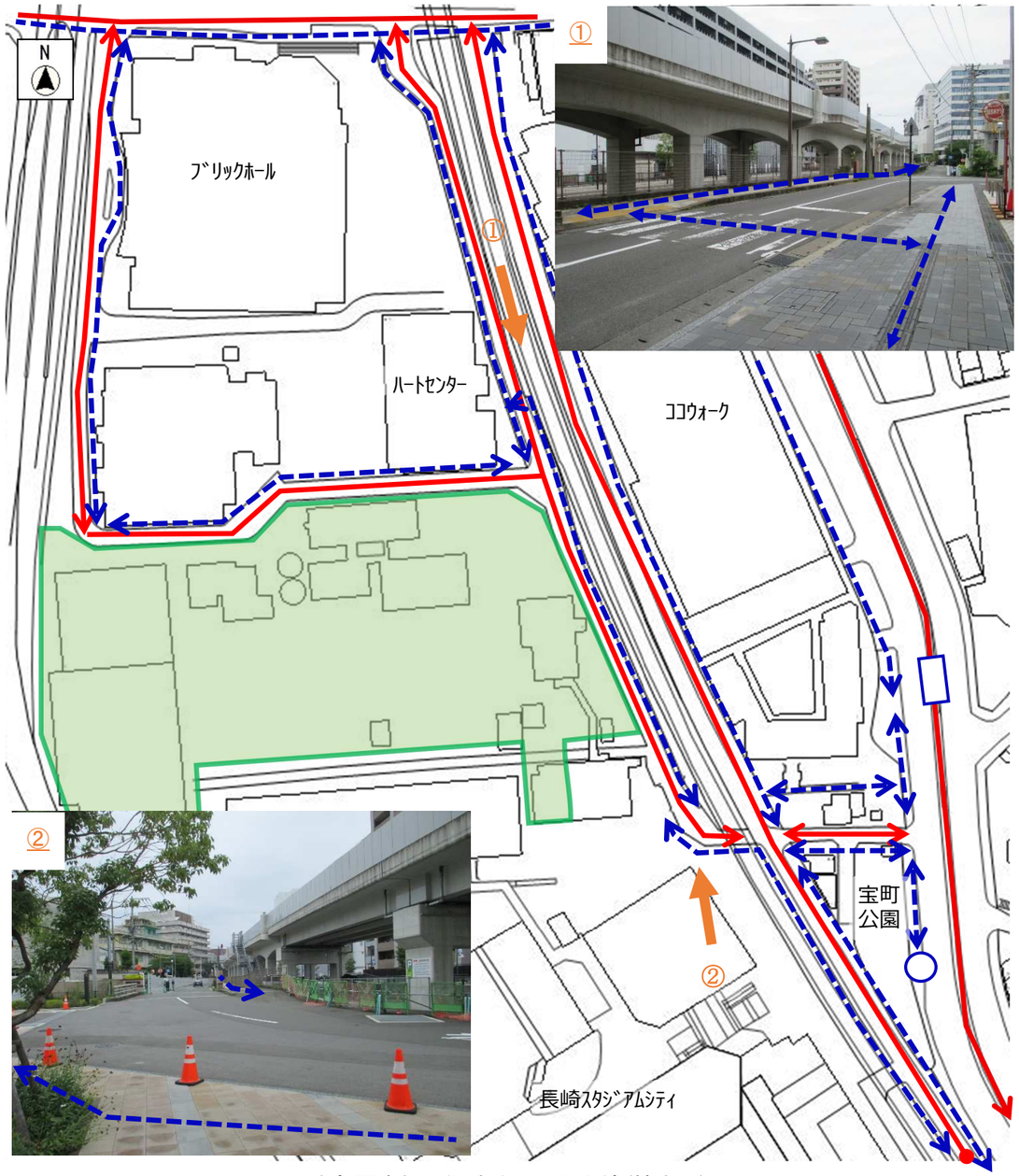


図－４　中部下水処理場跡地周辺の駐車場

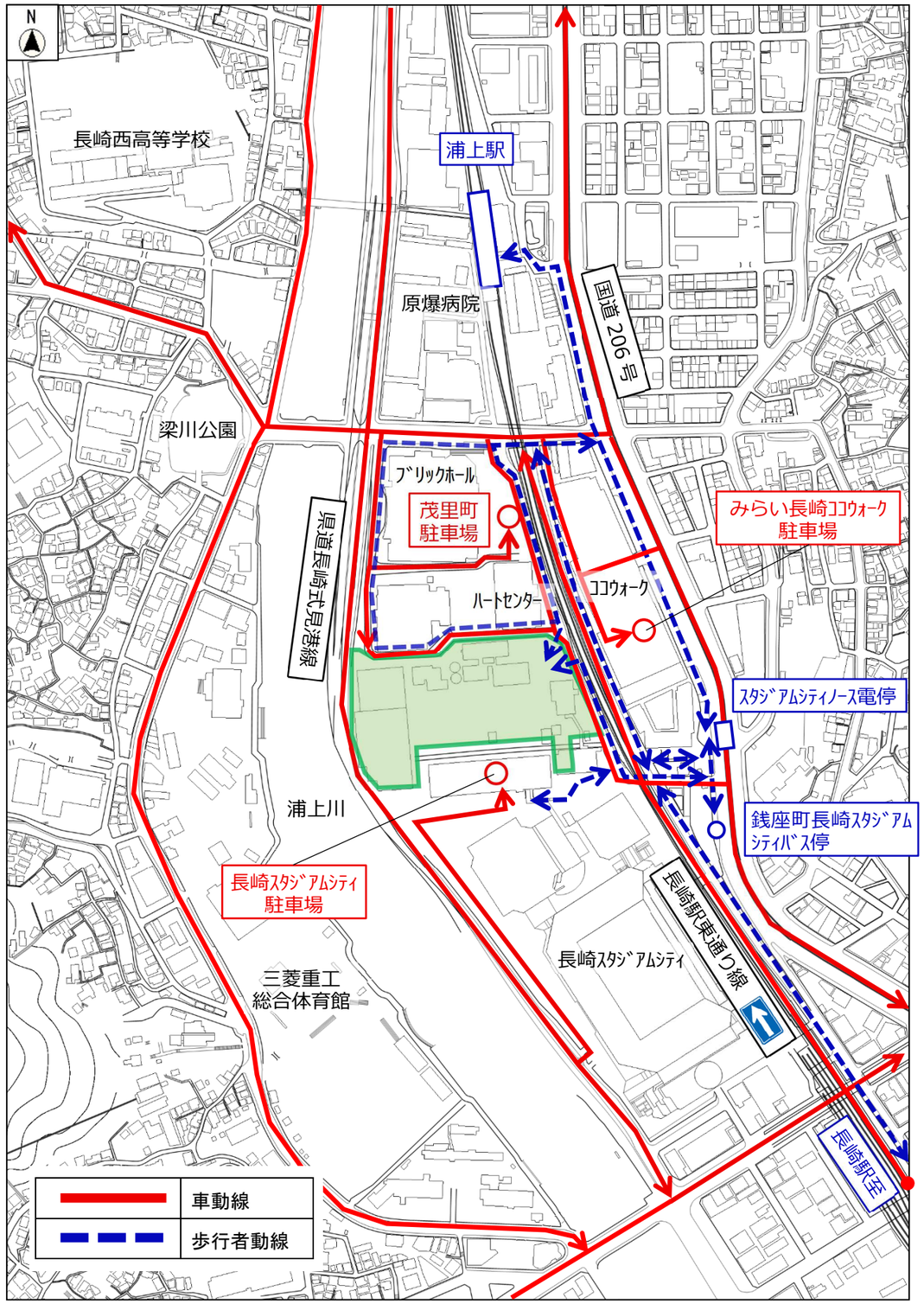
跡地の現状

（４）茂里町周辺の動線

・ブリックホール、ハートセンター前の歩道は中部下水処理場跡地まで繋がっておらず、ハートセンターから横断歩道を渡り JR 高架側の歩道を渡る必要があります。
・長崎スタジアムシティ前の歩道についても中部下水処理場跡地までは繋がっておらず、道路を横断し、JR 高架側の歩道を渡る必要があります。
・最寄りの電停・バス停からは宝町公園を横切ることで中部下水処理場跡地にアクセスできます。



中部下水処理場跡地周辺の動線（拡大図）



図－５　中部下水処理場跡地周辺の動線

跡地の現状

（５）中部下水処理場跡地周辺の現地写真



①



⑤



②



⑥



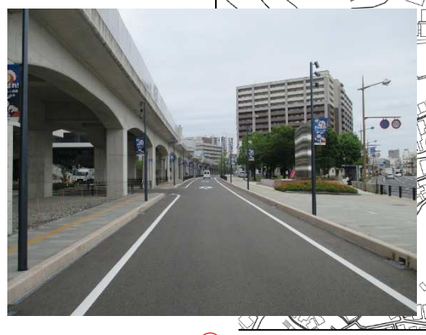
③



⑦



④



⑧



⑨



⑩



⑭



⑪



⑫



⑬

図－６　中部下水処理場跡地周辺の現地写真

（６）茂里町周辺の人口状況

中部下水処理場跡地が位置する茂里町の町別の総人口の推移をみると、令和 4 年度と比較して約 20 人減となり、令和 4 年度から約 5%の人口が減っていることから茂里町の人口は緩やかに減少していると言えます。

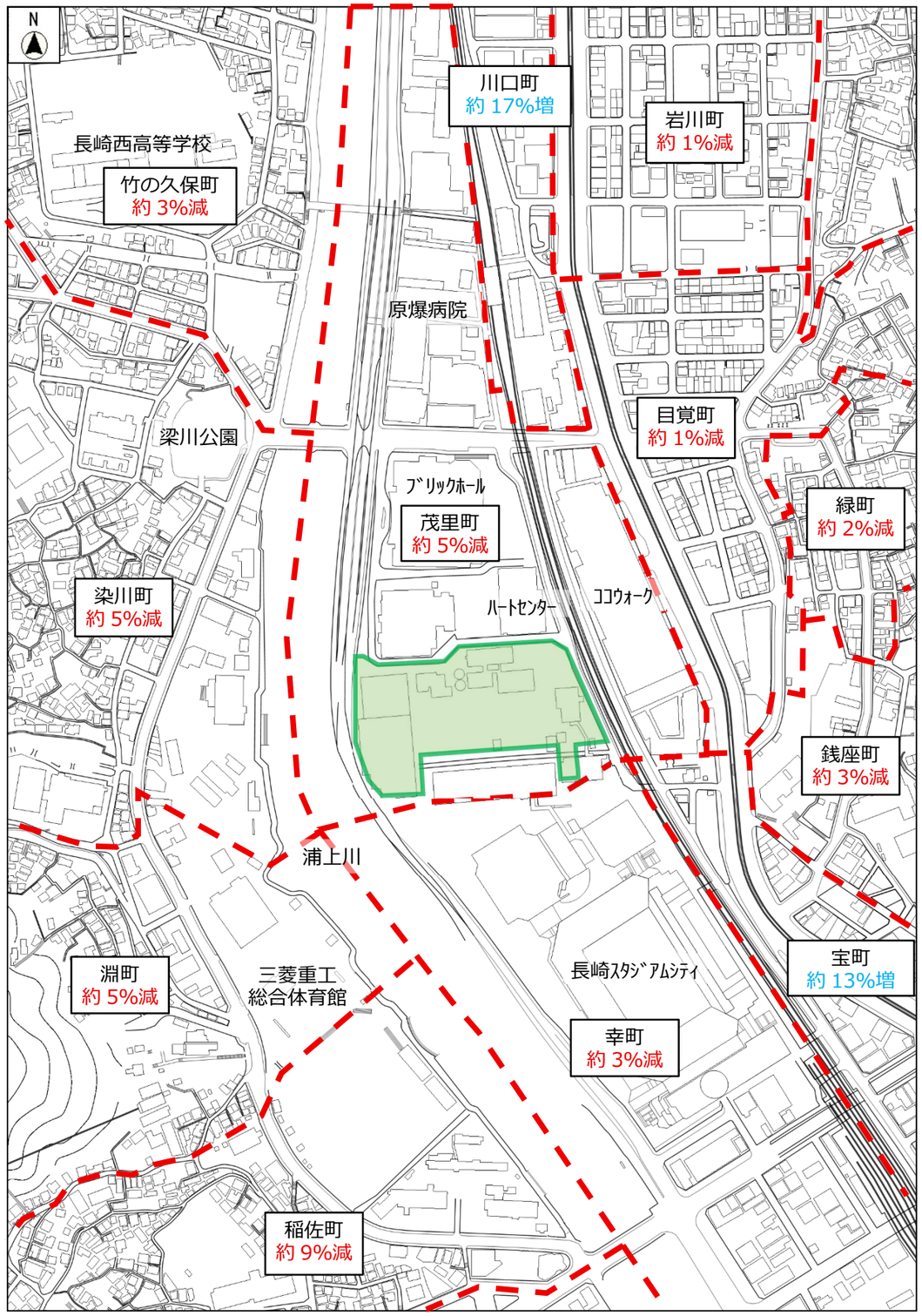
また、隣接する町としては、隣接する南側エリアには、幸町、宝町が、北側エリアにはすぐ上に川口町が、国道を挟んだ東側エリアには、目覚町、緑町、銭座町、岩川町が、浦上川を挟んだ西側エリアには竹の久保町、梁川町、淵町、稲佐町があります。

隣接する町の人口推移を見ると、宝町、川口町および目覚町が増加傾向にあり、特に川口町は令和 4 年度から約 16.7%人口が増加しています。それ以外の町については、令和 4 年度から約 1～9%で減少しており、長崎市全体でみても令和 4 年度には約 40 万人だった人口が令和 8 年度には約 38 万人と約 5%減少していることがわかります。

ア　茂里町および隣接町の人口

■町別総人口推移（人）

区分	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	町別割合（令和 8 年度）
茂里町	423	423	413	419	401	0.10%
幸町	114	104	96	102	111	0.03%
宝町	567	568	614	653	643	0.17%
川口町	1,214	1,214	1,283	1,366	1,417	0.37%
目覚町	970	961	947	970	974	0.25%
緑町	341	334	341	341	335	0.09%
銭座町	766	788	756	752	741	0.19%
岩川町	1,010	992	1,006	994	997	0.26%
竹の久保町	788	769	760	755	764	0.20%
梁川町	1,089	1,032	1,053	1,045	1,039	0.27%
淵町	548	551	542	525	519	0.14%
稲佐町	1,342	1,314	1,299	1,　268	1,225	0.32%
茂里町周辺（12 町合計）	9,172	9,050	9,110	9,190	9,166	2.39%
長崎市全体（参考）	403,513	398,384	393,310	388,411	383,274	100.00%



図－７　中部下水処理場跡地周辺の町別人口増減率（2022→2026）

（７）上位計画・関連計画について

１　上位計画

名称	多目的広場の目指す方針・方向性	活用検討における留意点等
長崎市 第五次 総合計画	■施策 E3 ・ 快適な暮らしやすい市街地を形成します	➢ 賑わいと活力ある都心部の形成に向け、「基盤づくり（回遊性の向上、多様で柔軟性のある土地利用への転換など）」、「仕組みづくり（まちづくりのプレイヤーが生まれ活動しやすい仕組みづくりなど）」に取り組む
	■施策 G3 ・ スポーツ・レクリエーション活動を推進します	➢ 市民が気軽にスポーツやレクリエーションに親しめるように、各競技団体、長崎市スポーツ協会と連携し、スポーツイベントを推進 ➢ 多様化するスポーツニーズの把握に努め、必要かつ適切なスポーツ環境の整備を推進

２　関連計画

名称	多目的広場の目指す方針・方向性	活用検討における留意点等
都心まちづくり構想 （R6.4 策定）	■川辺のエリア（右図）の整備の方針 ・ 陸の玄関口として、長崎駅を中心とした一大集客エリア ・ スポーツレクリエーションなどの娯楽や余暇の充実 ・ 土地利用転換による、多様で柔軟な機能の確保 ・ 防災も含めた多目的な使い方ができる空間整備	➢ 全国からの集客エリアとなる施設整備と交流の創出・波及 ➢ 全ての市民が娯楽と余暇を楽しめる環境整備
長崎まちづくりのグランドデザイン 2050 （R8.2 策定）	■「都心部」における取組みの方向性 ・ 居場所づくりや交流が生まれる空間の創出 ・ 公共空間や低未利用地などの柔軟な活用 ・ スポーツや文化芸術などを活用した賑わいの創出 ・ 人に優しく緑を感じる空間の創出 ・ 空間の柔軟な活用 ・ エリアの価値を維持・向上させる体制の構築 ・ 取組みを支える場の確保	➢ 試行を重ねながら使われる空間づくり ➢ 民間が力を発揮しやすい仕組みづくり ➢ 地域内外のクリエイターなどの活動の場の確保と連携の仕組み ➢ 持続可能な運営体制と仕組み ➢ 立場や分野を超えた連携体制の構築と拠点づくり
長崎市都市計画マスタープラン （H28.12 改訂）	■地域別構想（中央北部地区）の生活像の目標 ・ 都心周辺部としての都市機能の集積と交流の促進 ・ 豊かな自然環境と市街地の共存、学びの場の充実	➢ 交流の推進、交流施設の確保 ➢ 良好な景観誘導、緑地の保全と創出
長崎市立地適正化計画 （H30.4 策定）	■誘導施設における施策 ・ 都市機能誘導区域ごとに市全体を利用圏とし、多くの市民が利用する高次な都市機能増進施設や今後、政策的に誘導すべき施設に設定	➢ 競技練習等に利用される施設は、誘導施設（地域利用施設）として位置づけ ⇒ 都市機能誘導区域（右図参照）への配置が望ましい
長崎市景観計画 （R4.4 変更）	■一般地区の方針 ・ 周囲のまちなみや自然等との調和に配慮した建築物等の高さ	➢ 歩行者の目線に近い位置に存在する設備等は、遮へいの措置あるいは、周囲の景観に調和した意匠とする
長崎市公共施設の適正配置基準 （R7.12 改訂）	■スポーツ施設の適正配置基準 ・ 施設の廃止、集約を検討するとともに、県立や民間のスポーツ施設も利用しながら、維持していくことが必要な施設は、可能な限り、施設の機能の質の向上を図る	➢ 機能移転元の市営陸上競技場は、競技練習等利用施設として位置づけ

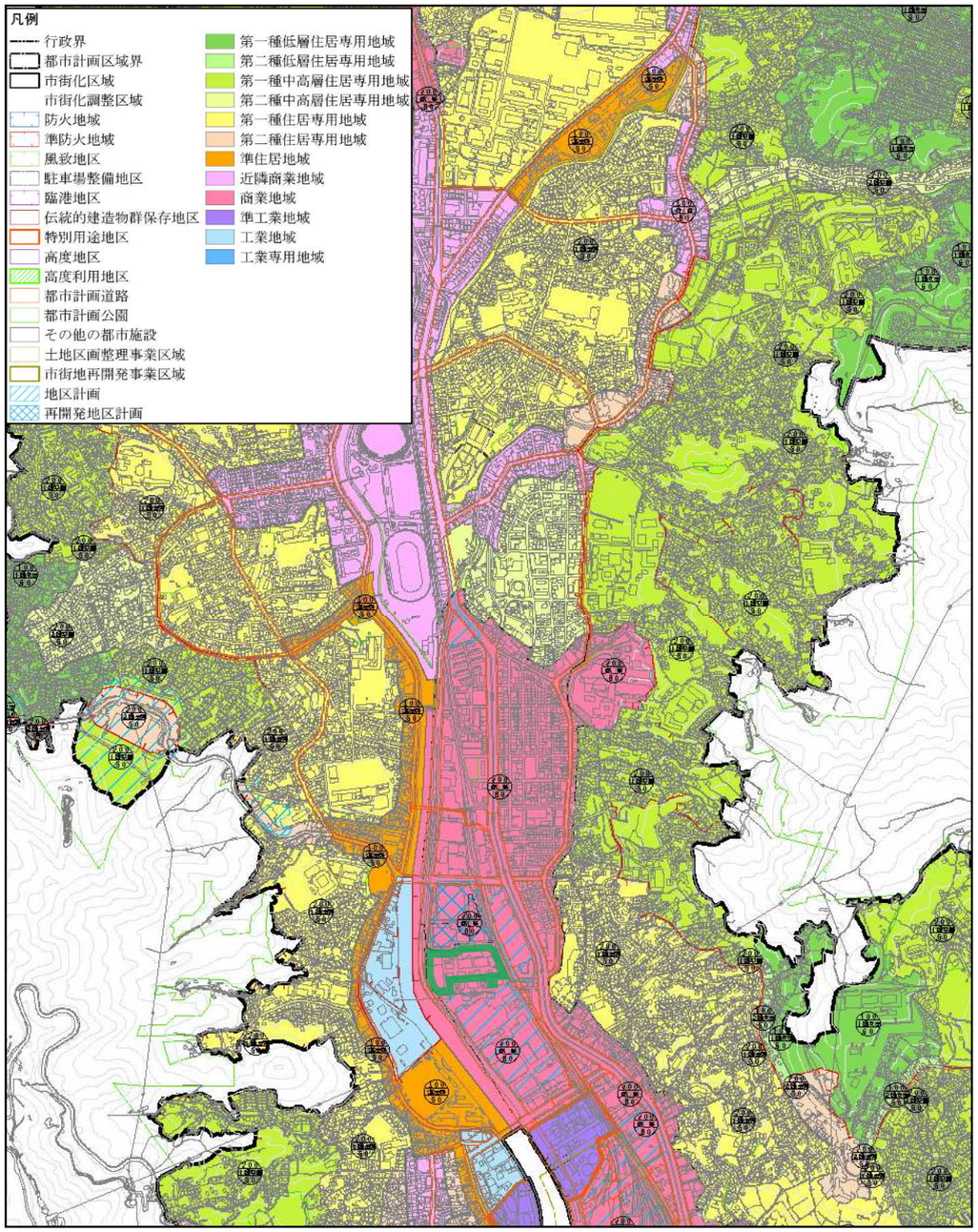
図:都心まちづくり構想エリア図

図:都市機能誘導区域図

（８）中部下水処理場周辺の土地利用規制

ア　用途地域

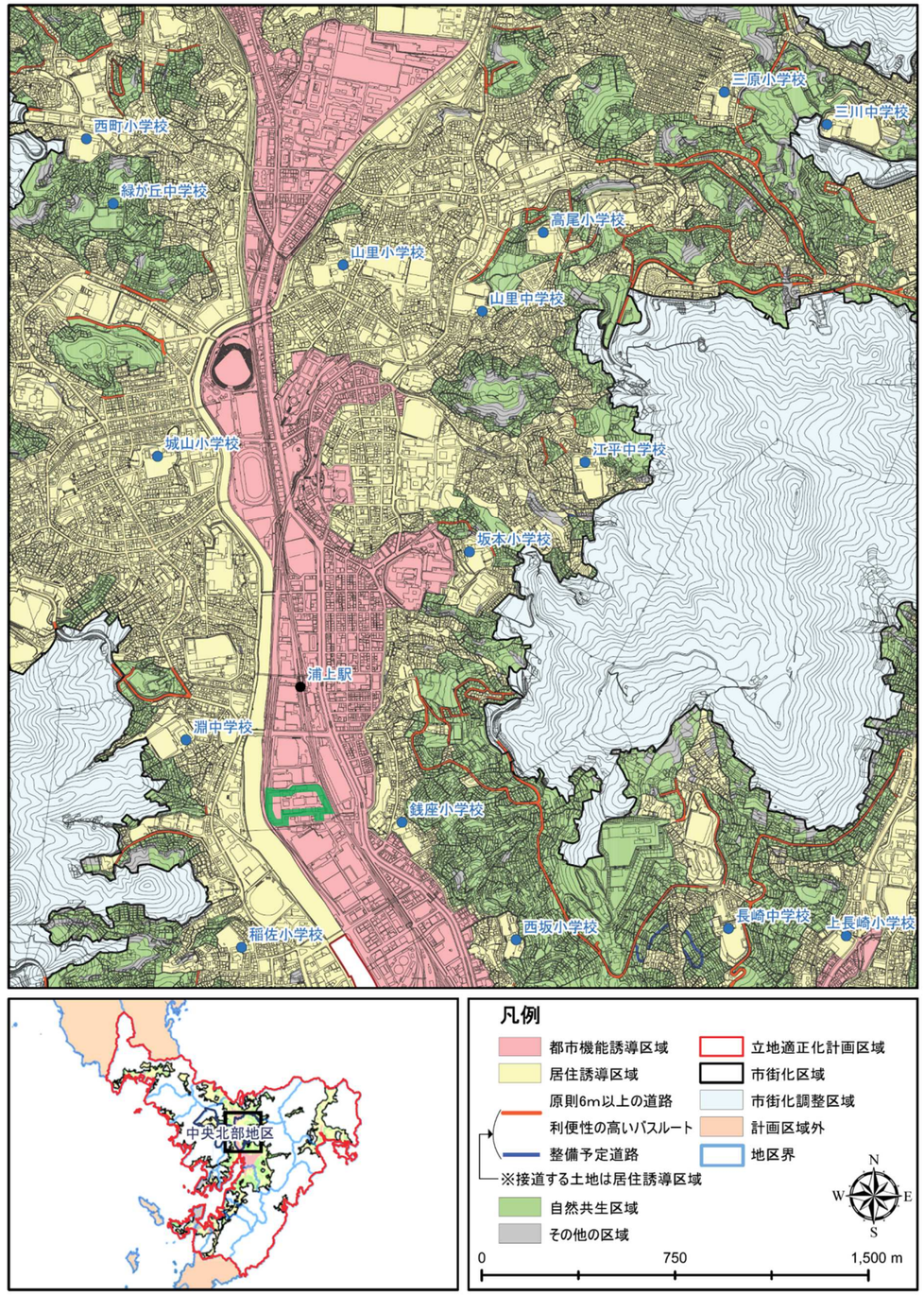
中部下水処理場跡地は、商業地域（建蔽率：80%、容積率：400%）が指定されています。



図－８　用途地域図

イ　都市機能誘導区域

平成 30 年 4 月に策定した「長崎市立地適正化計画」では、中部下水処理場跡地は「都心周辺部都市機能誘導区域」に位置しています。

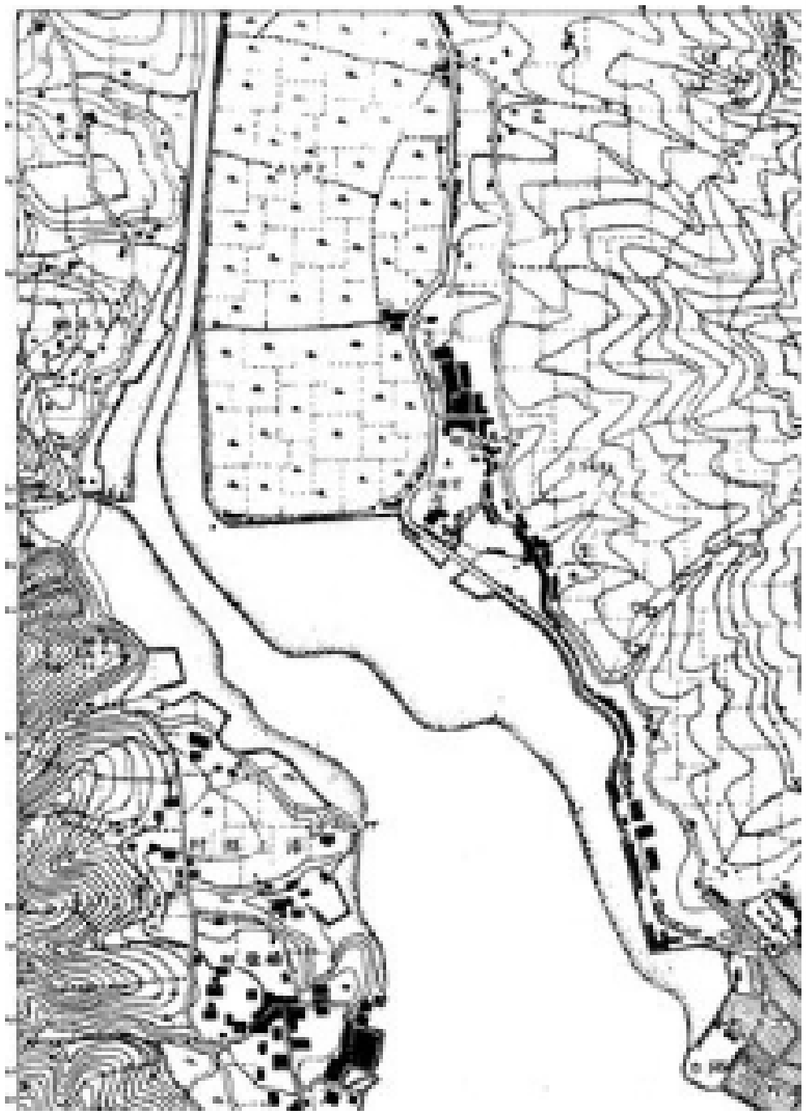


図－９　都心周辺部都市機能誘導区域

跡地の現状

（９）対象地の沿革

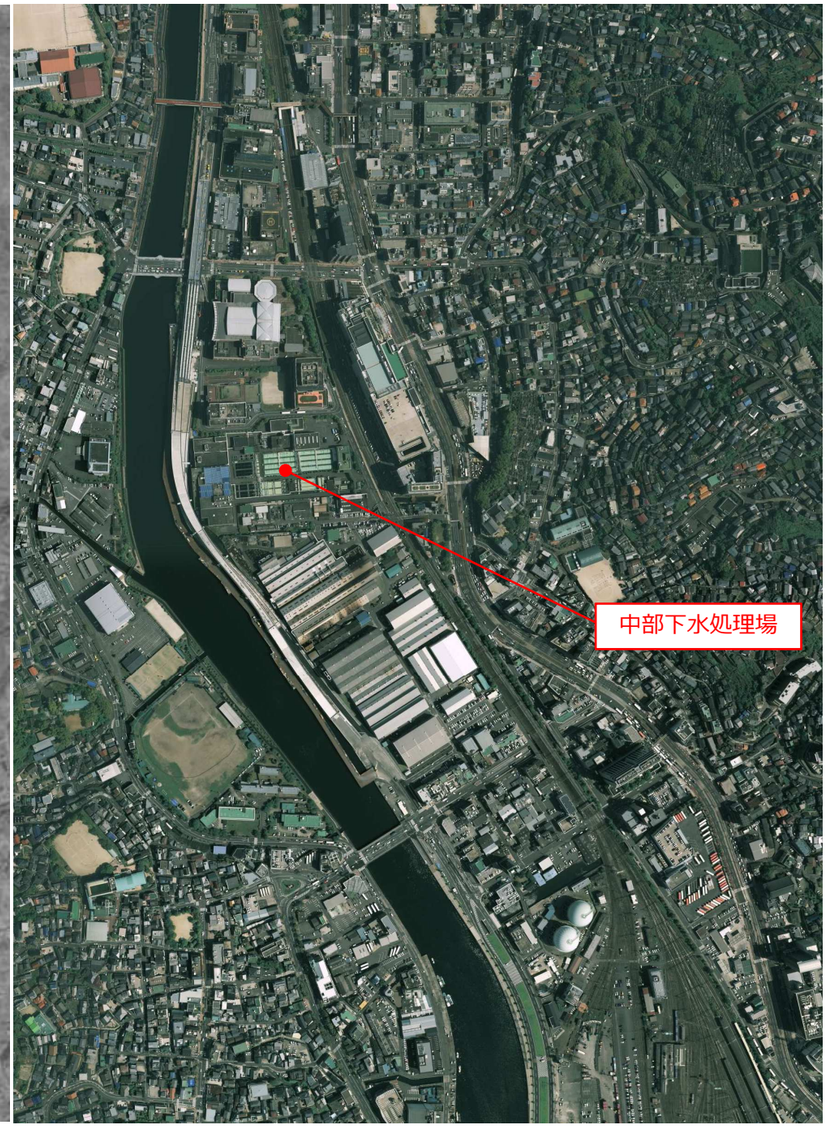
・1880 年頃：浦上川河口の干潟や海面の埋め立て
・1910 年頃：三菱長崎兵器製作所茂里町工場が発足
・1945 年：原爆により工場壊滅
・1961 年：中部下水処理場として供用開始
・2023 年：老朽化が著しいことから、中部下水処理場を廃止し、西部下水処理場に統合
・2025 年：2027 年の施設解体完了にむけて解体工事を施行中



（１）1884 年（明治 17 年）
国土地理院地図を加工



（２）1947 年（昭和 22 年）
国土地理院空中写真を加工



（３）2010 年（平成 22 年）
国土地理院空中写真を加工

出典：国土地理院ウェブサイト

跡地の現状

（１０）航空写真









跡地活用の考え方について

基本コンセプト

みんなが集まり、立ち寄る
ボーダレスな多目的広場

≠専用用途

平常・非常時　日常・非日常時のすべてで機能

希少なオープンスペースの強みを最大化

機能別 - 整備の考え方

憩い



立ち寄れる「余白」の場

みどり



機能別 - 整備の考え方

スポーツ・健康



400mトラック

外周路





機能別 - 整備の考え方

こども・遊び





広場・ボール遊び・遊具

障害があっても使いやすい（インクルーシブ）





資料７

機能別 - 整備の考え方

にぎわい・イベント



メイン会場・サブ会場・バッファスペース



常設で造らない

機能別 - 整備の考え方

防災・都市レジリエンス



緊急避難場所

災害活動拠点



周辺施設との関係性



周辺施設	広場が補完する機能
長崎スタジアムシティ	イベント波及、混雑緩和
みらい長崎ココウォーク	回遊性向上、滞留空間の提供
長崎ブリックホール	屋外展示・市民参加型催事
もりまちハートセンター	障害者スポーツ・交流活動の場

まとめ



運動施設でも緑地でもイベント広場でも防災広場でも

“あり続ける”

しかし、どれか一つに固定しない

“都心の余白”

資料８

アンケート調査の内容について

アンケート調査の内容について

長崎市では、長崎スタジアムシティの隣にある「中部下水処理場跡地（約 2.8 ヘクタール）」の有効活用を検討しています。

この場所は、市民の健康づくりや部活動などに日常的に使える「400m トラック（練習施設）」の整備が決定しています。それ以外の空間については、特定の目的に固定せず、スポーツ・憩い・こどもの遊び・にぎわい・防災など、多様な役割を柔軟に果たす「みんなが集まり、立ち寄るボーダレスな多目的広場（都心の余白）」を目指しています。

周辺の様々な施設と連携し、将来の市民にとっても価値ある空間にするため、あなたの声をお聞かせください。

ア　アンケート調査の概要

調査期間：令和７年７月１７日　～　令和８年８月１７日　（予定）
アンケート方法：電子申請システム
周知方法：市公式 HP、市公式 SNS、広報ながさき、周辺自治会への回覧、
　　周辺小学校へのチラシ

イ　アンケート調査項目（案）

アンケート調査では、回答者属性、来場頻度、来場目的、移動手段、跡地に求める機能などについて調査を行う予定です。

Ⅰ．回答者の属性・茂里町地区の利用状況について

この地区の特徴や、あなたの日頃の行動ニーズを把握するための質問です。

Q1. あなたの年齢を教えてください。
□10 代以下
□20 代
□30 代
□40 代
□50 代
□60 代
□70 代以上

Q2. あなたは本跡地（中部下水処理場跡地）に対して、どのようなお立場ですか？
□周辺の住民（銭座校区など、近隣の自治会・町内会に加入している）
□周辺小学校（銭座小学校など）に子どもが通う保護者
□上記以外の長崎市民（他地区の住民）
□長崎市外にお住いの方

Q3. 茂里町・幸町周辺エリア（長崎スタジアムシティ、ココウォーク、ブリックホール、もりまちハートセンター周辺）を訪れる頻度はどのくらいですか？
□ほぼ毎日（通勤・通学など）
□週に 2～3 回程度
□月に 2～3 回程度
□数ヶ月に 1 回程度
□ほとんど訪れない

Q4. このエリアを訪れる際、主に「誰と」来ることが多いですか？【複数選択可】
□一人で
□家族（小さなお子様連れ）
□家族（大人のみ、あるいは中高生以上の子ども）
□友人・知人
□同僚・仕事関係者
□学校の部活動や地域のサークル仲間
□その他（　　）

Q5. このエリアを訪れる主な「目的」は何ですか？【複数選択可】
□買い物・ショッピング
□食事・カフェ利用
□映画・アミューズメント
□音楽、演劇、芸術などの文化イベント鑑賞（ブリックホールなど）
□スポーツ観戦、アリーナイベントへの参加（スタジアムシティなど）
□福祉施設の利用、交流活動（もりまちハートセンターなど）
□通勤・通学・乗り換え（長崎バス・路面電車・JR など）
□周辺の散策・ウォーキング
□その他（　　）

Q6. このエリアへ来る際の主な「交通手段」は何ですか？
□自家用車
□路面電車
□路線バス
□ JR（長崎駅・浦上駅など）
□自転車・バイク
□徒歩
□その他（　　）

資料８

アンケート調査の内容について

Ⅱ．多目的広場に求める「機能」について

特定の施設名ではなく、どのような「過ごし方・機能」を重視するかを伺います。

Q7．整備される多目的広場において、「重要だと思う機能」や「やってみたい過ごし方」は何ですか？特に優先するものを１つ選択してください。

□緑ある場所でのんびり休憩する、読書やピクニックを楽しむ
□障害の有無に関わらず、子どもたちがのびのびとボール遊びや遊具で遊べる（インクルーシブな遊場）
□ランニングやウォーキング、軽い運動
□地域の祭り、屋外マルシェ、フードフェス、スポーツ大会などのイベントへの参加
□近隣施設でのイベント時の待ち合わせや、混雑を避けて一息つける休憩
□地震や火災など、いざという時の避難場所や災害支援の拠点としての安心感
□その他（　　）

Ⅲ．求める機能に必要な「施設・設備」について

詳細設計（ハードウェア配置）に向けて、具体的にどのような設備があると心地よく過ごせるかを伺います。

Q8．前問（Q7）で選んだ過ごし方を実現するために、この広場に「あったら良いと思う設備」は何ですか？【複数選択可】

□ベンチや日よけ（休憩スペース）
□緑や土の広場（寝転がったり、ピクニック、走ったり、軽いボール遊びができる空間）
□誰もが安全に使える、インクルーシブな遊具（障害の有無に関わらず遊べる遊具）
□夜間でも安全に歩行・ジョギングできる照明設備
□手洗い場
□誰でも使いやすいバリアフリートイレ
□キッチンカーが出店できるスペース
□屋外イベント用の電源設備
□トラック外周のウォーキングコース・散策路
□災害時に活用できるマンホールトイレや防災井戸などの備え
□その他（　　）

Ⅳ．周辺施設を補完して使いこなせる「仕掛け（ソフト・運営）」について

スタジアムシティやココウォークなど、強力な周辺施設との相乗効果を生み出すためのアイデアを伺います。

Q9．周辺施設（スタジアムシティ、ココウォーク、ブリックホール、もりまちハートセンターなど）と広場が一体となって魅力を高めるために、どんな「仕掛けや仕組み」があると良いと思いますか？【複数選択可】

□公共交通アクセス性がよいため、市などの大会・イベントなどの行事との連携
□試合やイベント開催時に、混雑を避けて休憩できたり、パブリックビューイングが楽しめる広場運営など滞留空間
□テイクアウトした飲食を広場に持ち込んで、心地よく食べられるテラス席の設置など滞留空間
□ホールでの展示会や催事と連動した、屋外での市民参加型アートイベントやフリーマーケットの開催
□障害のある方もない方も、気軽に一緒に参加できるパラスポーツ体験会や交流イベントの定期開催などバリアフリーな交流の場
□周辺を歩きたくなる（ウォーカブルな）歩行ルートの整備
□その他（　　）

Q10．多目的広場が整備されると茂里町・幸町周辺エリア（長崎スタジアムシティ、ココウォーク、ブリックホール、もりまちハートセンター周辺）を訪れる頻度はどうなりますか？

□今よりも訪れる
□今と変わらない
□今よりも訪れなくなる

Q11．この中部下水処理場跡地の多目的広場について、期待することや具体的なアイデア、ご意見があれば自由にご記入ください。【自由記述】

※本跡地につきましては、多目的広場としての活用を検討しており、大規模建築物の整備は予定しておりません。

参考資料

実施済みアンケート調査

アンケート調査の結果について

中部下水処理場跡地活用の基本計画の策定を行うにあたり、市民のニーズを把握するために近隣施設である長崎スタジアムシティ利用者および近隣住民を対象にアンケート調査を行いました。

ア　スタジアムシティ利用者へのアンケート調査

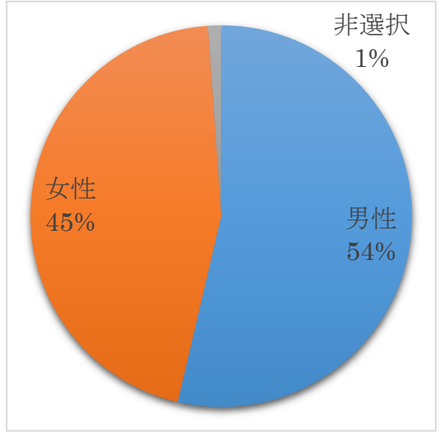
対象者　　：スタジアムシティ利用者
調査期間　：令和 7 年 7 月 5 日、令和 7 年 8 月 2 日（試合開催日）
送付数　　：6,000 人　（会場配布）
回答率　　：9.1%（電子申請システム回答 546 人）
調査項目　：回答者属性、来場頻度、移動手段、跡地に求める機能など

■性別

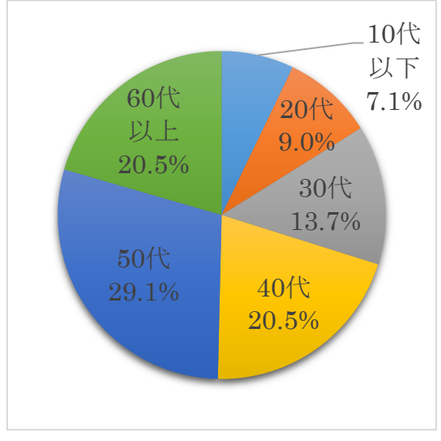
区分	回答者数	割合
男性	293 人	53.7%
女性	247 人	45.2%
非選択	6 人	1.1%
合計	546 人	100.0%

■年齢

区分	回答者数	割合
10 代以下	39 人	7.1%
20 代	49 人	9.0%
30 代	75 人	13.7%
40 代	112 人	20.5%
50 代	159 人	29.1%
60 代以上	112 人	20.5%
合計	546 人	100.0%



図－９　性別（スタジアムシティ利用者）



図－１０　年齢（スタジアムシティ利用者）

イ　近隣自治会へのアンケート調査

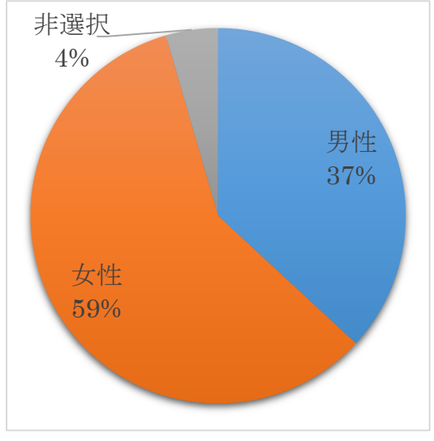
対象者　　：近隣自治会
調査期間　：令和 7 年 7 月 5 日　～　令和 7 年 7 月 21 日
送付数　　：986 人（自治会回覧）
回答率　　：38.2%（電子申請システム回答 377 人）
調査項目　：回答者属性、跡地に求める機能など

■性別

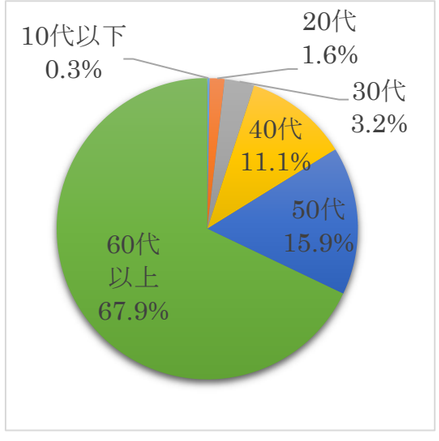
区分	回答者数	割合
男性	139 人	36.9%
女性	221 人	58.6%
非選択	17 人	4.5%
合計	377 人	100.0%

■年齢

区分	回答者数	割合
10 代以下	1 人	0.3%
20 代	6 人	1.6%
30 代	12 人	3.2%
40 代	42 人	11.1%
50 代	60 人	15.9%
60 代以上	256 人	67.9%
合計	377 人	100.0%



図－１１　性別（近隣自治会）



図－１２　年齢（近隣自治会）

ウ　アンケート調査結果

（１）来場頻度（スタジアムシティ利用者）のアンケート結果

来場頻度（スタジアムシティ利用者）については、「月数回」が最も多く、次いで「週 1～2 回」が多い傾向にありました。

■来場頻度（スタジアムシティ利用者）の集計結果

選択肢	回答数	割合
毎日	40	7.3%
週 1～2 回	130	23.8%
月数回	279	51.1%
年数回	79	14.5%
ほとんどこない	18	3.3%
合計	546	100.0%

（２）移動手段（スタジアムシティ利用者）のアンケート結果

移動手段（スタジアムシティ利用者）については、「自家用車」や「バス」が多い傾向にありました。また、「徒歩」、「電気軌道」、「JR」についても一定の回答がありました。

■移動手段（スタジアムシティ利用者）の集計結果

選択肢	回答数	割合
徒歩	88	16.4%
バス	149	27.7%
電気軌道	63	11.7%
JR	52	9.7%
自家用車	181	33.6%
バイク・自転車	4	0.7%
その他	1	0.2%
合計	538	100.0%

（３）主に誰との利用が想定されるかのアンケート結果

主に誰との利用が想定されるかのアンケート結果は、「家族（子ども含む）31.5%」や「家族（子ども除）30.6%」が多い傾向にありました。「同僚・仕事仲間 2.2%」は他の項目と比較すると少ない傾向にありました。

■主に誰との利用が想定されるかの集計結果

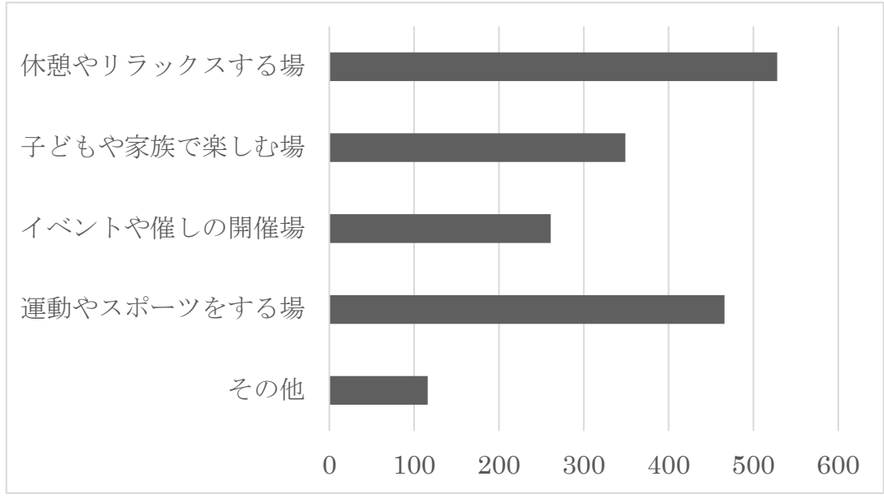
選択肢	回答数	割合
1 人	182	20.5%
家族（子ども除く）	272	30.6%
家族（子ども含む）	280	31.5%
友人・恋人	113	12.7%
同僚・仕事仲間	22	2.5%
その他	20	2.2%
合計	889	100.0%

（４）跡地に求める使い方のアンケート結果

跡地に求める使い方として、「運動やスポーツをする場　27.1%」や「子どもや家族で楽しむ場 20.3%」が多い傾向にありました。また、「休憩やリラックスする場 30.7%」も多い結果となっています。

■跡地に求める使い方の集計結果

選択肢	回答数	割合
休憩やリラックスする場	528	30.7%
子どもや家族で楽しむ場	349	20.3%
イベントや催しの階催場	261	15.2%
運動やスポーツをする場	466	27.1%
その他	116	6.7%
合計	1,720	100.0%



図－１３　跡地に求める使い方の集計結果

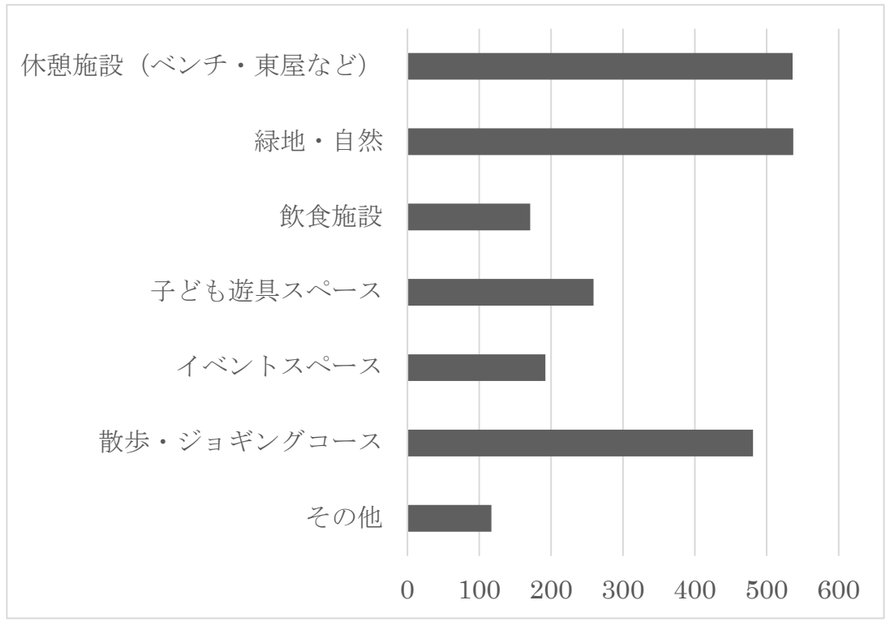
実施済みアンケート調査

（５）跡地に求める施設や機能のアンケート結果

跡地に求める施設や機能として、「休憩施設（ベンチ・東屋など）　23.4%」や「緑地・自然　23.4%」、「子ども遊具スペース　21.0%」が多い傾向にありました。また、「飲食施設　7.5%」や「イベントスペース　8.4%」は他の項目と比較すると少ない傾向にありました。

■跡地に求める施設や機能の集計結果

選択肢	回答数	割合
休憩施設（ベンチ・東屋など）	536	23.4%
緑地・自然	537	23.4%
飲食施設	171	7.5%
子ども遊具スペース	259	11.3%
イベントスペース	192	8.4%
散歩・ジョギングコース	481	21.0%
その他	117	5.1%
合計	2,293	100.0%



図－１４　跡地に求める施設や機能の集計結果

（６）宝町公園についてのアンケート結果

中部下水処理場跡地が宝町公園と同じ機能で整備される場合、宝町公園の再整備を希望するかの調査を行った結果、「別の使い方での再整備を希望する　72.5%」、「別の使い方での再整備を希望する　27.5%」となり別の使い方での再整備を希望する回答が多い傾向にありました。

■跡地に宝町公園と同じ機能が整備される場合に再整備を希望するかの集計結果

選択肢	回答数	割合
現状のまま存続を希望する	247	27.5%
別の使い方で再整備を希望する	651	72.5%
合計	898	100.0%

また、宝町公園について、希望する再整備内容について調査を行った結果、「滞留空間の拡充」が最も多い傾向にありました。

■跡地に宝町公園と同じ機能が整備される場合に再整備を希望するかの集計結果

選択肢	回答数	割合
道路機能の拡充	323	39.2%
滞留空間の拡充	419	50.9%
その他	81	9.8%
合計	823	100.0%

（７）中部下水処理場跡地検討に関する自由意見

自由意見としては、日常的な利用に関する意見、再整備（ハード面）に関する意見、駐車場や交通、バリアフリーに関する意見などがありました。

○自由記載抜粋

・隣に長崎スタジアムシティがあり、多くの人が来るので、一時的に休憩する場所があったほうがゆとりができていいと思う。
・銭座町周辺はゆっくり子どもを遊ばせる公園がないので広々とした公園の活用を希望します。
・災害時のテント、水、食料等の近くの住民がすぐ取りに行ける倉庫などを置いて頂けると助かります。
・ダンス、楽器、ストレッチ、ヨガなど多目的なスペースを希望します。
・人が増え、横断歩道のない所で車道を渡る人達が多い。跡地の施設へ動線を配慮した通路計画をして頂けると助かります。

参考資料

平和公園（西地区）再整備基本計画報告書

令和７年５月

長崎市平和公園再整備基本計画検討委員会

目　次

【本　編】

第１章　平和公園（西地区）再整備基本計画について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
　１－１．再整備基本計画策定の趣旨
　１－２．再整備基本計画の計画期間

第２章　平和公園（西地区）の現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
　２－１．平和公園の概要
　２－２．長崎南北幹線道路の事業化（検討の前提条件）
　２－３．公園を取り巻く状況
　２－４．平和公園（西地区）の特性
　２－５．市民ニーズ

第３章　平和公園（西地区）の方向性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
　３－１．上位計画・関連計画
　３－２．空間形成の考え方
　３－３．再整備にあたっての課題
　３－４．平和公園（西地区）の基本方針
　３－５．スポーツ施設の再配置に関する方針

第４章　平和公園（西地区）の整備方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５
　４－１．ゾーニングとゾーン別整備方針
　４－２．動線計画
　　（１）平和公園全体のネットワークの考え方
　　（２）車両動線計画
　　（３）歩行者動線計画

第５章　整備イメージ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
　５－１．平面配置
　５－２．視線レベル

第６章　整備にあたっての配慮事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１

【資料編】

１．平和公園の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２

２．平和公園の沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５

３．平和公園の現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７

４．上位計画・関連計画等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２７

５．公園を取り巻く状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９

６．平和公園（西地区）の特性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３８

７．市政モニターアンケート調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４９

８．景観形成の考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５２

９．平和公園（西地区）における緑化の現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５４

１０．長崎南北幹線道路に支障をきたす既存スポーツ施設の再配置の考え方・・・・・・・５５

１１．長崎市平和公園再整備基本計画検討委員会　中間報告書・・・・・・・・・・・・・７３
　　（長崎市平和公園スポーツ施設の再配置について）

第１章　平和公園（西地区）再整備基本計画について

１－１．再整備基本計画策定の趣旨

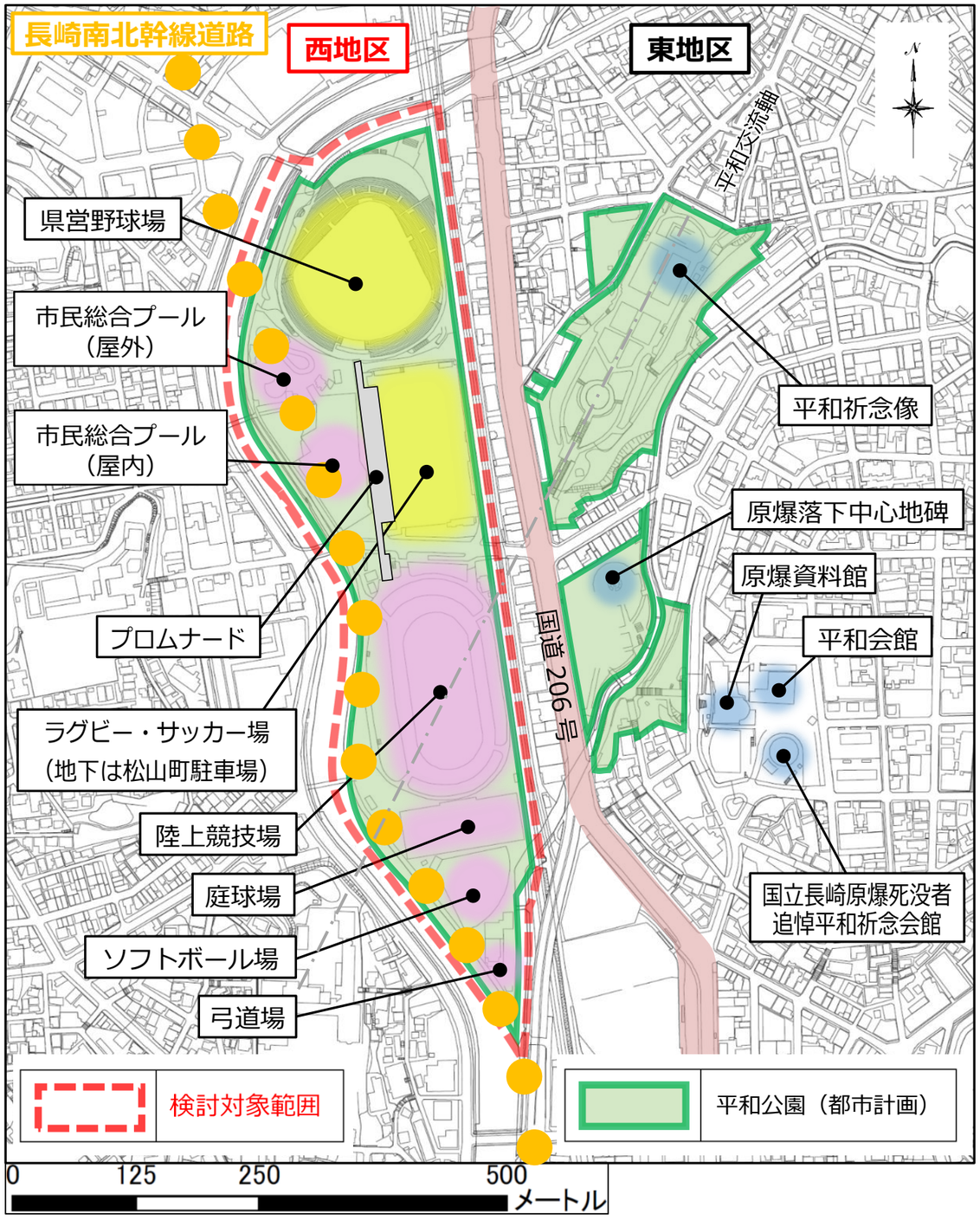
平和公園は長崎市松山町を中心とする約 18.5ha（令和７年５月現在）の総合公園であり、昭和 26 年の開設以降、様々な施設の整備が進められてきた。平成６年３月に「平和公園再整備基本計画（以下、「現行計画」という。）」を策定して以降は、現行計画に基づき、順次再整備を進め、現在では多くの市民や観光客などに利用されている長崎市を代表する重要な公園となっている。

平和公園を取り巻く状況は、長崎県において事業中区間の整備や調査中区間の事業化に向けた検討が進められている高規格道路「長崎南北幹線道路」によりスポーツ施設の再配置が必要となるなど、変化している。そのため、現行計画は見直す必要がある。

「平和公園（西地区）再整備基本計画（以下、「本計画」という。）」は、長崎南北幹線道路との整合を図るとともに、立地特性や利用特性、社会情勢の変化を踏まえて、平和公園（西地区）の将来の在り方やスポーツ施設の再配置の方向を示すことを目的に策定された。なお、平和公園（東地区）は長崎南北幹線道路の整備による影響を直接受けないため、対象外とする。

１－２．再整備基本計画の計画期間

本計画は、長崎南北幹線道路の整備計画と整合を図る必要があることから、計画期間も長崎南北幹線道路の事業期間（令和 4～18 年度）を基本とする。



平和公園概略図

（長崎市都市計画図を加工、以降の加工元が示されていない図には、長崎市都市計画図を用いた）

２－１．平和公園の概要

●長崎国際文化都市建設計画法（昭和 24 年施行）に基づき、被爆の実相を訴えるとともに、世界平和と文化交流のための記念施設として昭和 26 年に開設した。
●以後、施設の拡充・更新等を行い、長崎市民のみならず、国内外の多くの人々に親しまれてきたシンボル的な総合公園である。

２―２．長崎南北幹線道路の事業化（検討の前提条件）

●長崎南北幹線道路（(都）長崎時津縦貫線）が高架橋で平和公園西地区の上空を通過する。
・再配置の検討対象施設：**市民総合プール（屋内・屋外）**、**陸上競技場**、**庭球場**、**ソフトボール場**、**弓道場**

２－３．公園を取り巻く状況

①人口減少・少子高齢化の進行
●人口減少・少子高齢化が進行する中、限られた財源内で、高齢者の健康増進や子どもの遊び場の充実など、定住促進に寄与する公園整備が求められている。

②スポーツニーズの多様化
●ライフスタイルの多様化などを背景に、競技スポーツや、市民スポーツ（レクリエーション）など、多様なニーズに対応した環境の整備が求められている。

③自然災害の頻発化・激甚化
●自然災害が頻発化･激甚化する中、公園には防災拠点や避難場所としての役割が求められている。

④環境問題の顕在化・深刻化
●環境問題が顕在化・深刻化する中、二酸化炭素削減に向け、公園分野においても積極的な取組みが求められている。

⑤公園施策の動向
●民間活力による新たな都市公園の整備手法（Park-PFI）が創設され、全国的に官民連携手法による公園整備が進んでいる。
●新型コロナ危機を契機に、グリーンインフラとしての緑や、オープンスペースの重要性が再認識されている。

⑥SDGs（持続的な開発目標）への対応
●誰もが容易に、緑地や公共スペースへアクセスできることが求められている。

２－４．平和公園（西地区）の特性

①立地特性
●南北の都市軸上に位置し、市街地中心部に立地する唯一の総合公園であり、貴重なオープンスペースである。
●周辺では住居系や商業系の土地利用がなされ、学校も多く立地している。
●路線バスや路面電車による公共交通の利便性が高く、幹線道路に接している。

②敷地特性
●東側は路面電車や JR、西側は二級河川浦上川に面する細長い敷地形状である。
●中央付近に市道松山町線が位置し、西地区への主要なアクセス道路となっている。
●東側の国道 206 号からが主な歩行者動線となるが、その他にも出入口が点在している。

③利用特性・施設特性
●競技場としては、庭球場、市民総合プール、県営野球場の利用者が多く、ソフトボール場の利用者が最も少ない。
●各施設で、県・市レベルの大会やイベントが開催されている。
●ソフトボール場以外の施設は、各世代に利用されている。
●陸上競技場は多目的に利用されている。（中学・高校生等の陸上競技の練習を含む）
●市民総合プール（屋外）は 6 月～9 月の利用に限定されている。
●令和 6 年度末現在、ソフトボール場（照明設備等）は 39 年、市民総合プールは 29 年、庭球場（屋根）は 13 年、弓道場は増築から 10 年経過している。
●松山町駐車場は、スポーツ施設で大会等が開催される場合は、ほぼ満車状態である。

④景観特性
●景観形成重点地区に指定されており、建築物の高さ基準が設けられている。
●平和公園から稲佐山に向けて「平和交流軸（ｐ.46 参照）」が形成されている。
●市道松山町線沿いは、緑あふれる歩行空間を形成している。
●東側のエントランス部は建築物や JR 高架施設により閉塞感が感じられる。
●西側は浦上川に面し開かれた空間を形成している。
●市道より北側は、大規模施設が密集している。
●市道より南側の陸上競技場とその周辺は、緑も多く、憩える空間となっている。

２－５．市民ニーズ

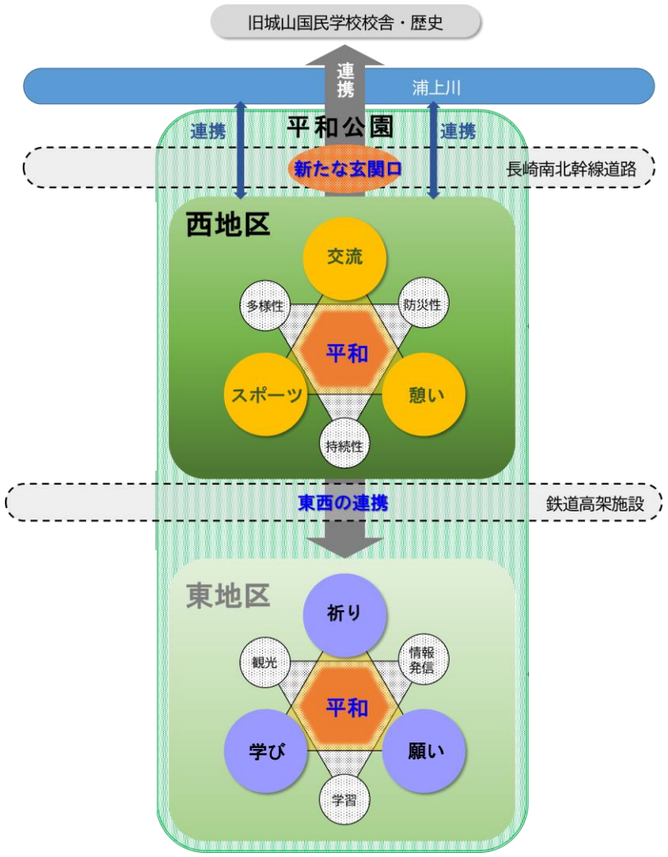
〇市政モニターアンケート調査（回答数 163 人）
●西地区の利用目的は、多い順に「散歩」「憩い・休息」「松山町駐車場への駐車」である。
●西地区の問題点・課題は、多い順に「休憩できる場所が少ない」「遊べる場所が少ない」「飲食場所が少ない」「飲食・物販店がない」「駐車場の台数が少ない」である。その他には、「子どもの遊び」に関する意見も見られた。
●西地区に必要な機能・充実した方が良い機能として、多い順に「憩いの場」「遊び等の空間」「飲食の場」「駐車場」である。
●平和公園（東地区と西地区）の一体性や連続性について、「東地区と西地区の個別の利用を尊重する」という回答が約 54%、「東地区と西地区の一体的な利用を推進する」が約 35%、「その他」が約 22%である。
●「その他」の意見として、「平和公園（西地区）も平和公園の一部であることを知らなかった」という意見が多数あった。

３－１．上位計画・関連計画

●第五次総合計画	●都市計画マスタープラン
●長崎都心まちづくり構想	●立地適正化計画
●景観計画	●歴史的風致維持向上計画
●バリアフリーマスタープラン	●公共施設適正配置基準
●スポーツ推進計画	●駐車場整備計画

- ●**都市公園としての機能向上**（多様化するニーズへの対応、景観性の向上、ユニバーサルデザイン化など）
- ●**より魅力的な空間の創出**（交流機会を創出するためのスポーツの場、広場空間の確保、緑化の推進、浦上川との連携など）

３－２．空間形成の考え方



３－３．再整備にあたっての課題

課題①　平和の継承・発信

- ●これまで培ってきた平和公園の趣旨を尊重しつつ、東地区との適切な機能分担のもと、未来に向け平和の尊さが感じられる**長崎市のシンボルとなる公園**であり続ける必要がある。

課題②　スポーツ施設の再配置と多様なニーズへの対応

- ●限られた敷地の中に従前と同じ施設を配置できないため、利用実態や代替地確保の可能性などを踏まえ、**スポーツ施設を再配置**する必要がある。
- ●**多様化するスポーツニーズに対応**するための環境を整える必要がある。

課題③　オープンスペースの維持・確保

- ●市街地に位置する利便性が高い貴重な土地であるため、市民に身近で**日常的な憩いの空間**や**災害時等の緊急避難場所**として、さらには、グリーンインフラの視点からも**オープンスペースや緑を維持・確保**する必要がある。

課題④　新たな玄関口としての機能強化

- ●（仮称）松山ＩＣの設置により、県北からの来訪者を迎え入れるための、新たな**玄関口としての機能を強化**する必要がある。

課題⑤　周辺施設等との連携や調和した景観の形成

- ●公園内はもとより、周辺に位置する**施設等との連携により相乗効果を生み出す空間**とする必要がある。
- ●平和公園から稲佐山への軸線や東西地区を結ぶ歩行者動線を尊重しつつ、周辺市街地等と調和した**都市景観を形成**する必要がある。
- ●南北幹線道路は、公園に溶け込み違和感を感じられないような設えにすることを求めていく必要がある。

課題⑥　持続可能な施設運営

- ●将来にわたり持続的に維持していくため、**官民連携手法の導入、ICT の活用**などにより、効率的で効果的な施設整備と、持続可能な管理運営を行っていく必要がある。

３－４．平和公園（西地区）の基本方針

平和公園再整備基本計画（平成 6 年 3 月）

全体：『平和の森』ー平和を願い、実践していく交流公園ー

①公園全体は、広々とした空間そして豊かな緑陰と、集客力のある施設を備えた、長崎市及び中央地区のシンボル的な公園とする。
②東地区は、平和を祈念する公園として、その機能を強化するとともに風致に配慮した『街の緑』となる公園とする。
③西地区は、スポーツ活動のみではなく、多様なレクリエーション活動や、水辺の利用に対応できる市民の「いこいの場」となる公園とする。
④平和公園を中心に、周辺の公園、レクリエーション施設、そして原爆のメモリアル施設とのネットワークを図る。

西地区：『市民交流、自然交流のゾーン』
- ●平和を希求する公園の未来性を利用形態を通して表現する。
- ●「平和交流」を「レクリエーション」と「自然」によって展開する。

東地区：『平和を祈り、願うゾーン』
- ●平和公園としてのメモリアル性をより象徴的な空間として表現する。
- ●東地区内の各ゾーンの象徴機能の明確化と一体的な地区としての再編、強化を図る。

西地区の基本方針（令和７年５月）

『平和を感じ、交流するゾーン』

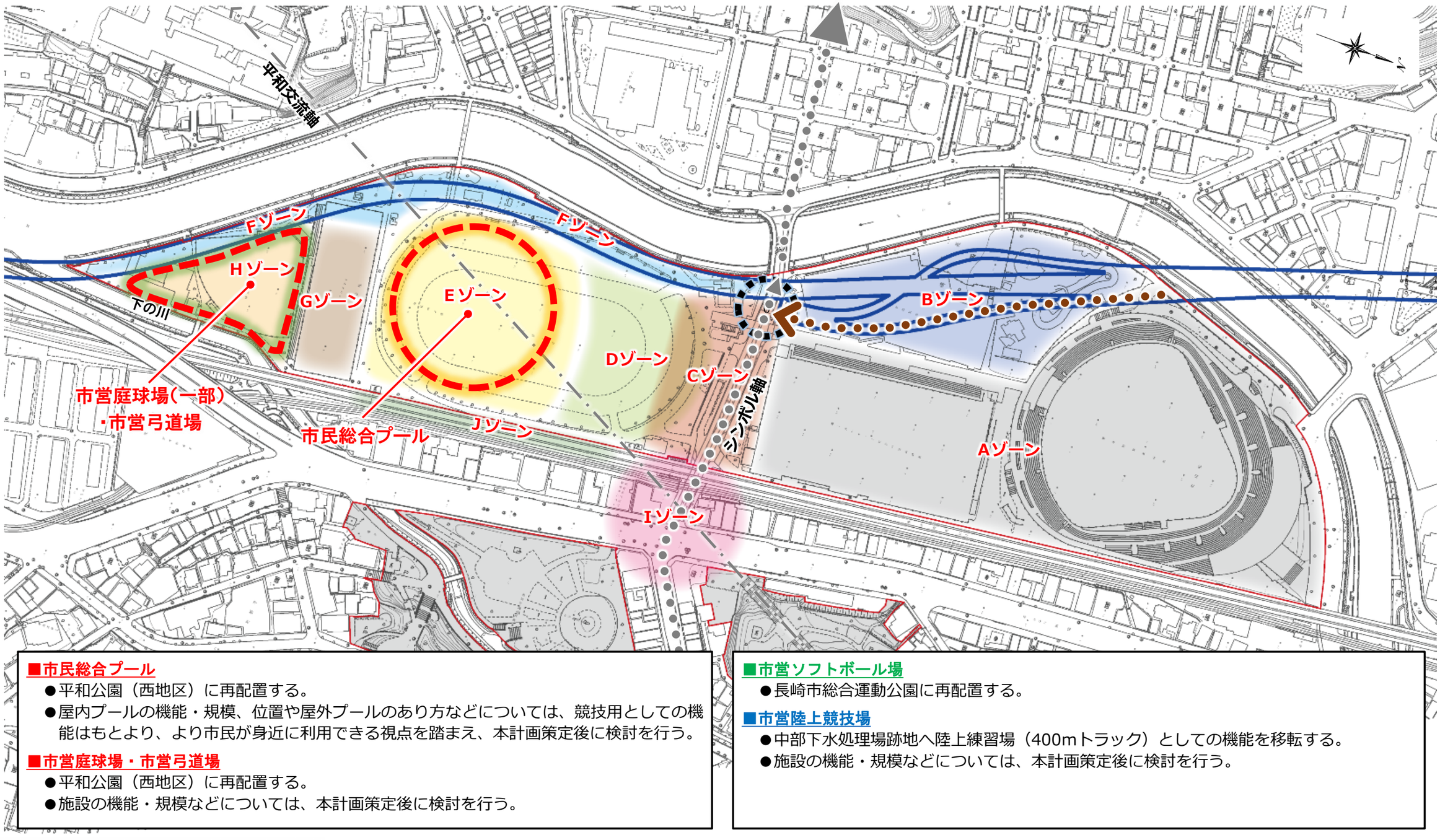
①多様なニーズに応じた、平和を実感するスポーツ環境の創出
- ●平和公園開設当初からのスポーツゾーンのコンセプトを引き続き維持し、多様なニーズに応じたスポーツやイベント等を通じて愉しみ、平和を実感するスポーツ環境を創出する。

②市民に身近で、平和の尊さを感じられる憩いの空間の形成
- ●市民が日常的に集い・安らげる居心地の良い空間、水や緑とふれあえる空間、安全・安心を支える防災力を備えた空間、景観的に調和がとれた空間など、日々の生活の中で平和の尊さを感じられる空間を形成する。

③長崎の新たな玄関口としての機能強化
- ●長崎南北幹線道路の（仮称）松山インターチェンジの整備に伴い、インターチェンジに接続する市道松山町線の車両交通量の増加が見込まれることから、交通処理機能の確保や周辺の公共駐車場への誘導などにより、車の来訪者を迎え入れる機能を強化する。

④平和を伝える機能向上の動線形成
- ●西地区における地域の歴史を伝える場をつくり、浦上川（水辺空間）、東地区、旧城山国民学校校舎につなげる動線を形成する。

⑤効率的で効果的な施設整備と管理運営
- ●官民連携手法や ICT の活用などにより、効率的で効果的な施設整備と、市民参加を促しながら、将来にわたり持続可能な管理運営を行う。



■市民総合プール

- ●平和公園（西地区）に再配置する。
- ●屋内プールの機能・規模、位置や屋外プールのあり方などについては、競技用としての機能はもとより、より市民が身近に利用できる視点を踏まえ、本計画策定後に検討を行う。

■市営庭球場・市営弓道場

- ●平和公園（西地区）に再配置する。
- ●施設の機能・規模などについては、本計画策定後に検討を行う。

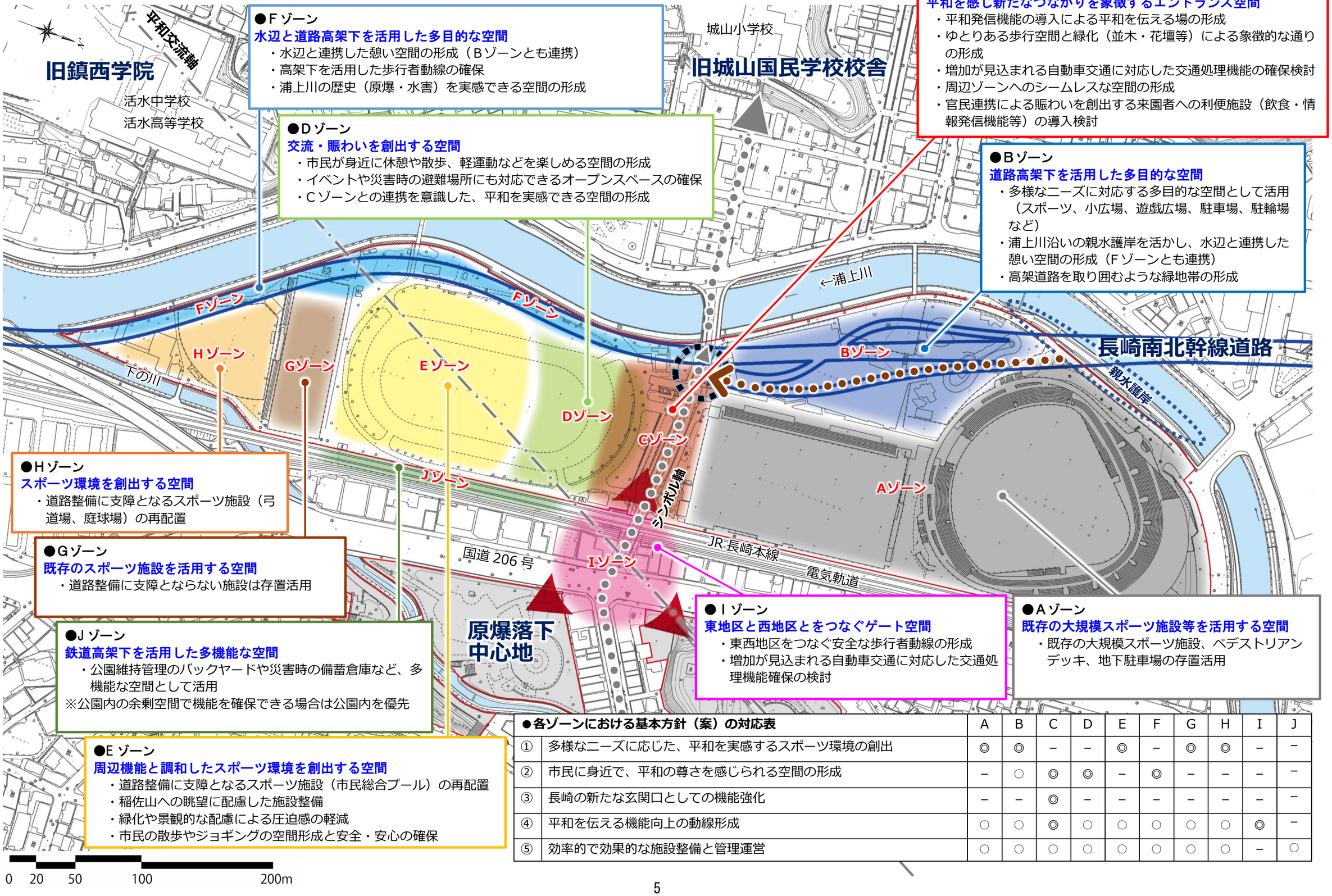
■市営ソフトボール場

- ●長崎市総合運動公園に再配置する。

■市営陸上競技場

- ●中部下水処理場跡地へ陸上練習場（400mトラック）としての機能を移転する。
- ●施設の機能・規模などについては、本計画策定後に検討を行う。

４－１．ゾーニングとゾーン別整備方針



●Ｆゾーン
水辺と道路高架下を活用した多目的な空間
・水辺と連携した憩い空間の形成（Ｂゾーンとも連携）
・高架下を活用した歩行者動線の確保
・浦上川の歴史（原爆・水害）を実感できる空間の形成

●Ｄゾーン
交流・賑わいを創出する空間
・市民が身近に休憩や散歩、軽運動などを楽しめる空間の形成
・イベントや災害時の避難場所にも対応できるオープンスペースの確保
・Ｃゾーンとの連携を意識した、平和を実感できる空間の形成

●Ｃゾーン
平和を感じ新たなつながりを象徴するエントランス空間
・平和発信機能の導入による平和を伝える場の形成
・ゆとりある歩行空間と緑化（並木・花壇等）による象徴的な通りの形成
・増加が見込まれる自動車交通に対応した交通処理機能の確保検討
・周辺ゾーンへのシームレスな空間の形成
・官民連携による賑わいを創出する来園者への利便施設（飲食・情報発信機能等）の導入検討

●Ｂゾーン
道路高架下を活用した多目的な空間
・多様なニーズに対応する多目的な空間として活用（スポーツ、小広場、遊戯広場、駐車場、駐輪場など）
・浦上川沿いの親水護岸を活かし、水辺と連携した憩い空間の形成（Ｆゾーンとも連携）
・高架道路を取り囲むような緑地帯の形成

●Ｈゾーン
スポーツ環境を創出する空間
・道路整備に支障となるスポーツ施設（弓道場、庭球場）の再配置

●Ｇゾーン
既存のスポーツ施設を活用する空間
・道路整備に支障とならない施設は存置活用

●Ｊゾーン
鉄道高架下を活用した多機能な空間
・公園維持管理のバックヤードや災害時の備蓄倉庫など、多機能な空間として活用
※公園内の余剰空間で機能を確保できる場合は公園内を優先

●Ｅゾーン
周辺機能と調和したスポーツ環境を創出する空間
・道路整備に支障となるスポーツ施設（市民総合プール）の再配置
・稲佐山への眺望に配慮した施設整備
・緑化や景観的な配慮による圧迫感の軽減
・市民の散歩やジョギングの空間形成と安全・安心の確保

●Ｉゾーン
東地区と西地区とをつなぐゲート空間
・東西地区をつなぐ安全な歩行者動線の形成
・増加が見込まれる自動車交通に対応した交通処理機能確保の検討

●Ａゾーン
既存の大規模スポーツ施設等を活用する空間
・既存の大規模スポーツ施設、ペデストリアンデッキ、地下駐車場の存置活用

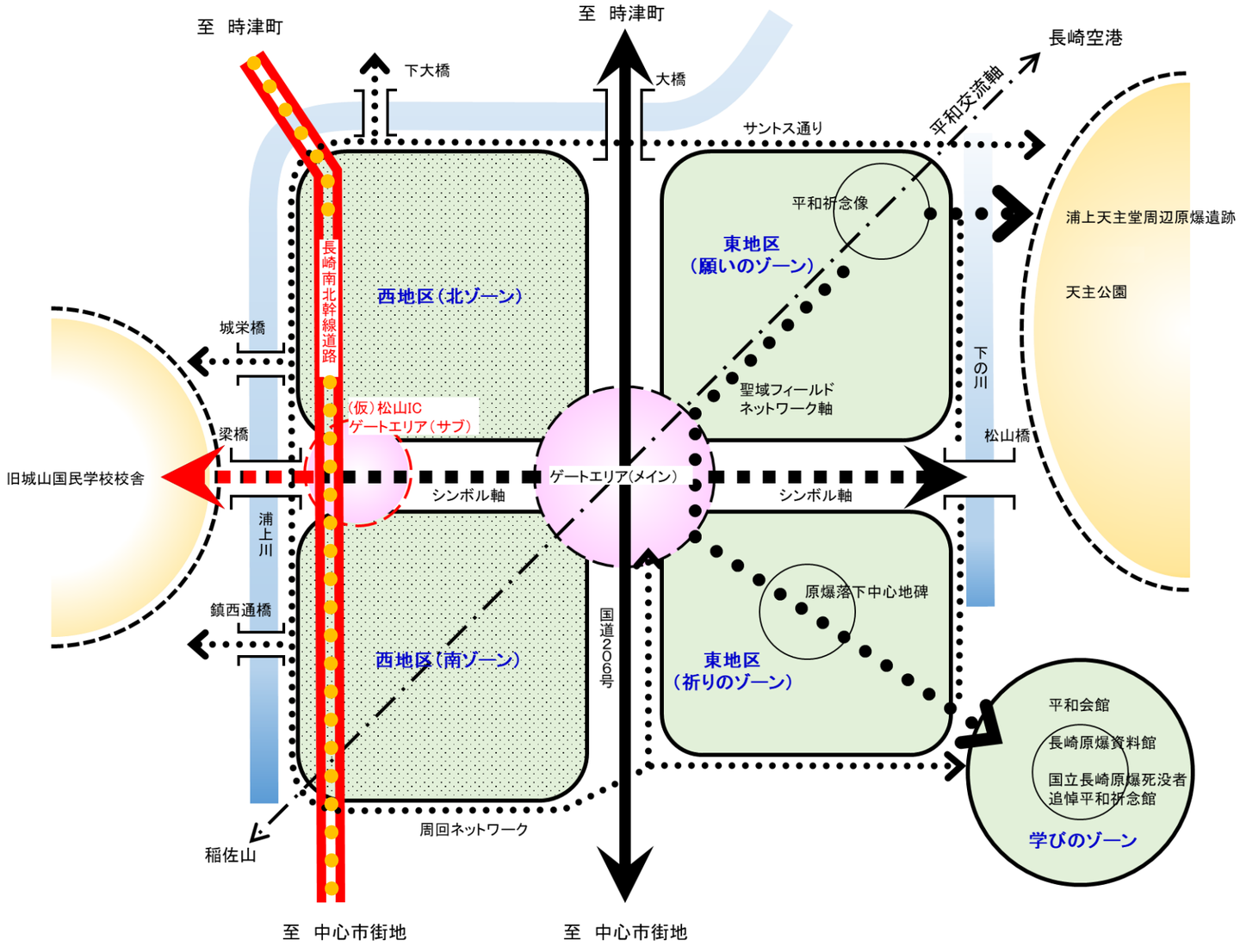
●各ゾーンにおける基本方針（案）の対応表		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
①	多様なニーズに応じた、平和を実感するスポーツ環境の創出	◎	◎	－	－	◎	－	◎	◎	－	－
②	市民に身近で、平和の尊さを感じられる空間の形成	－	○	◎	◎	－	◎	－	－	－	－
③	長崎の新たな玄関口としての機能強化	－	－	◎	－	－	－	－	－	－	－
④	平和を伝える機能向上の動線形成	○	○	◎	○	○	○	○	○	◎	－
⑤	効率的で効果的な施設整備と管理運営	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○

４－２．動線計画

現行計画に示されている平和公園全体のネットワークの考え方を踏まえて、車両動線と歩行者動線を定めた。

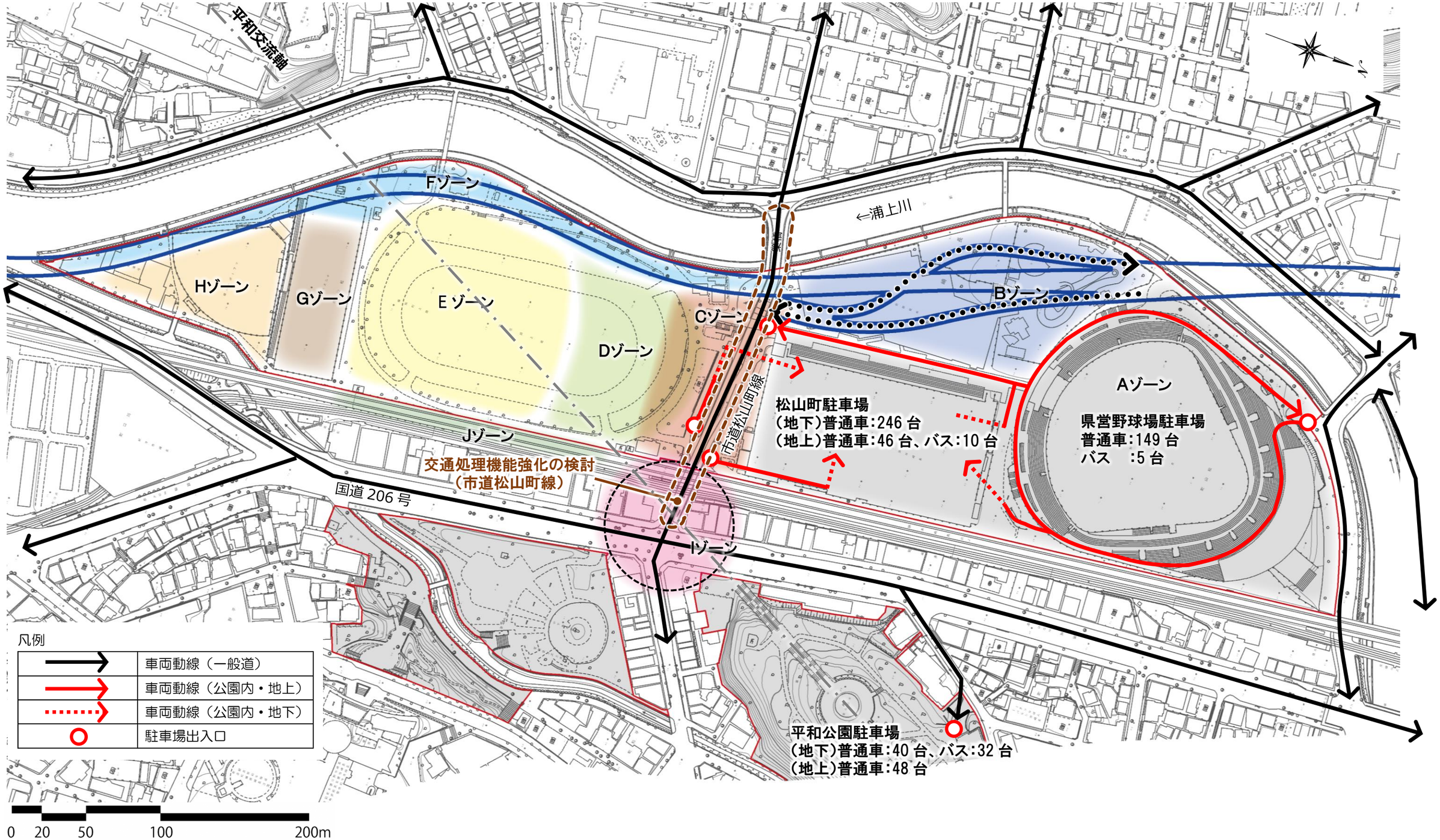
（１）平和公園全体のネットワークの考え方

- 計画にあたっては、平和公園の東西地区をつなぐ市道松山町線をシンボル軸として形成し、それぞれの地区の南北で、東地区（願いのゾーン、祈りのゾーン、学びのゾーン）と西地区（北ゾーン、南ゾーン）に分割した。シンボル軸については、平和公園の東西地区だけでなく、周辺の旧城山国民学校校舎とのつながりも位置付け、平和学習の一端を担う施設とのネットワークを形成する。
- 平和公園の各ゾーンの中心となる部分を「ゲートエリア（メイン）」、東西地区を結ぶ市道を「シンボル軸」、各ゾーンや周辺の平和関連施設との動線を歩行者の「周回ネットワーク」として位置づける。
- 長崎南北幹線道路の整備により新たに設置される（仮称）松山 IC 周辺は、サブのゲートエリアとして位置づけ、新たな玄関口としての機能強化を図る。



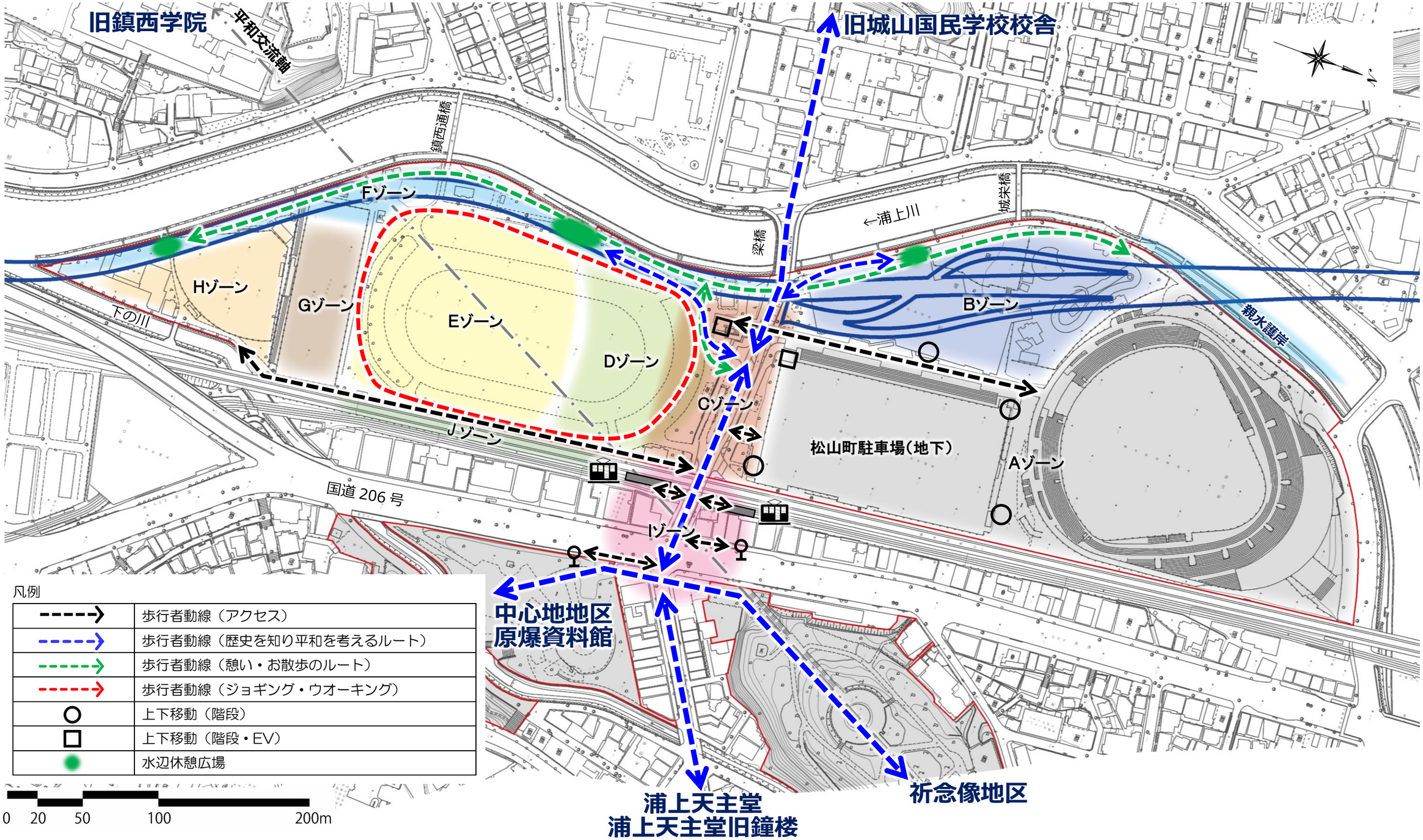
（２）車両動線計画

- 市道松山町線については、（仮）松山 IC の接続により交通量増加が見込まれることから、シンボル軸としての象徴性と整合を図りながら交通処理機能の確保について検討する。
- 長崎南北幹線道路から公園を訪れる車両は、既存の市営松山町駐車場（地下）や県営野球場駐車場（地上）、市営平和公園駐車場を活用し、新たな玄関口である（仮）松山 IC からサイン等により誘導する。
- 市道松山町線への車両の集中を緩和するにあたっては、駐車場からの車両の出口を検討する。



（3）歩行者動線計画

- 西地区全体を安全・安心に移動できる歩行者動線ネットワークの形成にあたっては、電車・バスの公共交通機関や市営松山町駐車場からの連続性を踏まえ、目的別に歩行者動線を分け、それを機能させるサイン等を整備する。
- Cゾーンには、西地区における歴史を伝える場をつくり、浦上川（水辺空間）、東地区、旧城山国民学校校舎につなげる動線をサイン等により形成する。
- Cゾーン（市道松山町線）は、ゆとりある歩行空間や周辺ゾーンへのシームレスな動線を確保する。
- 浦上川左岸には、憩い、地区の歴史を知るための水辺休憩広場を確保し、浦上川と稲佐山を望む眺望点とする。



第５章　整備イメージ

５－１．平面配置

弓道場（現況）



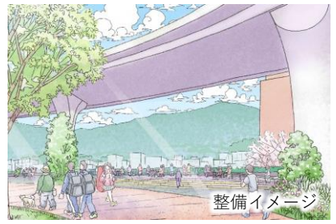
- 機能・規模・配置等については関係団体と協議

庭球場（現況）



- 機能・規模・配置等については関係団体と協議

水辺休憩広場



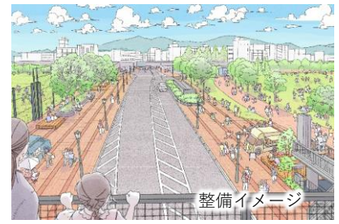
- 高架下で浦上川を眺め平和を感じられる空間を検討

平和発信広場



- 平和をつなぐ動線を形成するため、歴史を伝える場の検討

エントランス広場



- ゆとりある歩行空間と緑化により平和をつなぐ空間を検討

水辺休憩広場



- 散策時の休憩や浦上川を眺め平和を感じられる空間を検討

市民総合プール（現況）

- 機能・規模・配置等については関係団体と協議
- 祈念像地区から稲佐山に対する眺望を確保するため、建物の高さや植栽計画において配慮

外周園路

- 現状と同程度の600m走路を確保
- ジョギングとウォーキングのすみ分けを検討

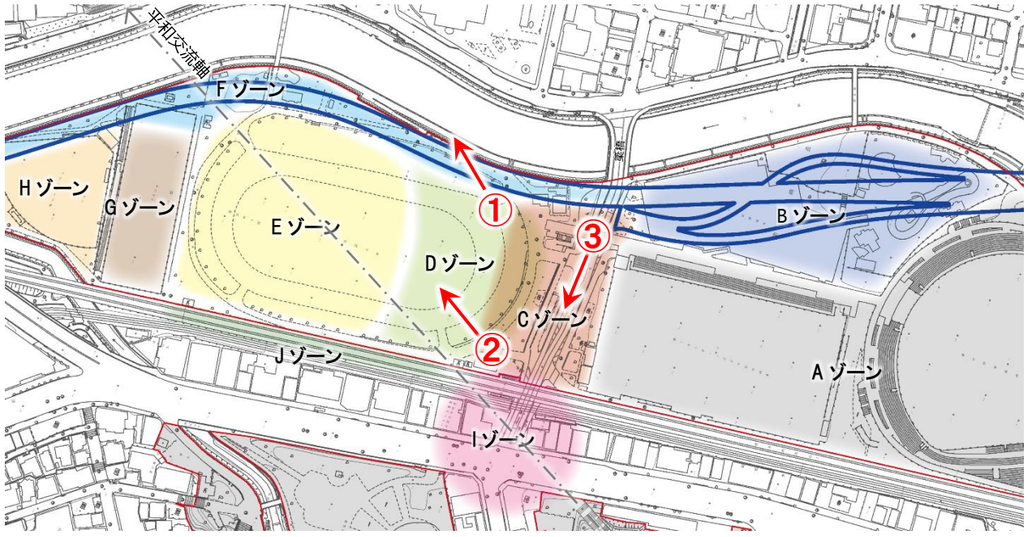
広場

- 日常的な休憩や軽運動、イベントなどに活用できる空間を確保
- 広さは8,000㎡程度

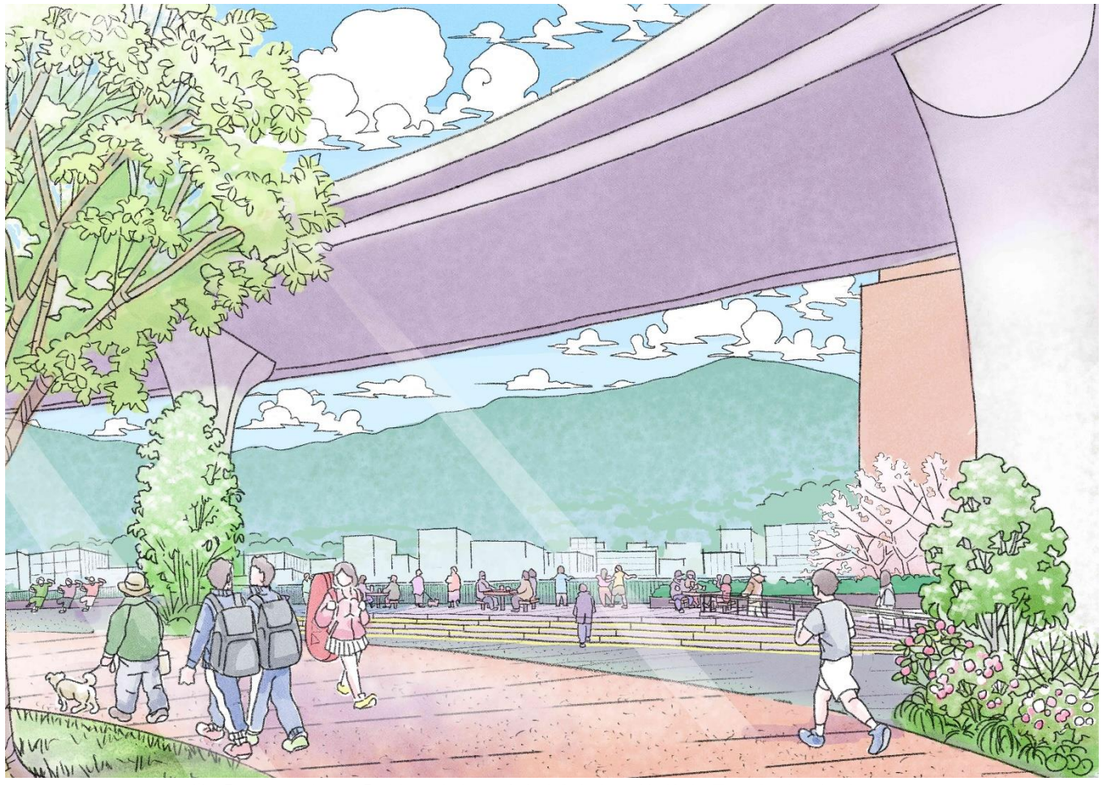
多目的運動広場

- 多世代による多様な運動が可能な空間を検討

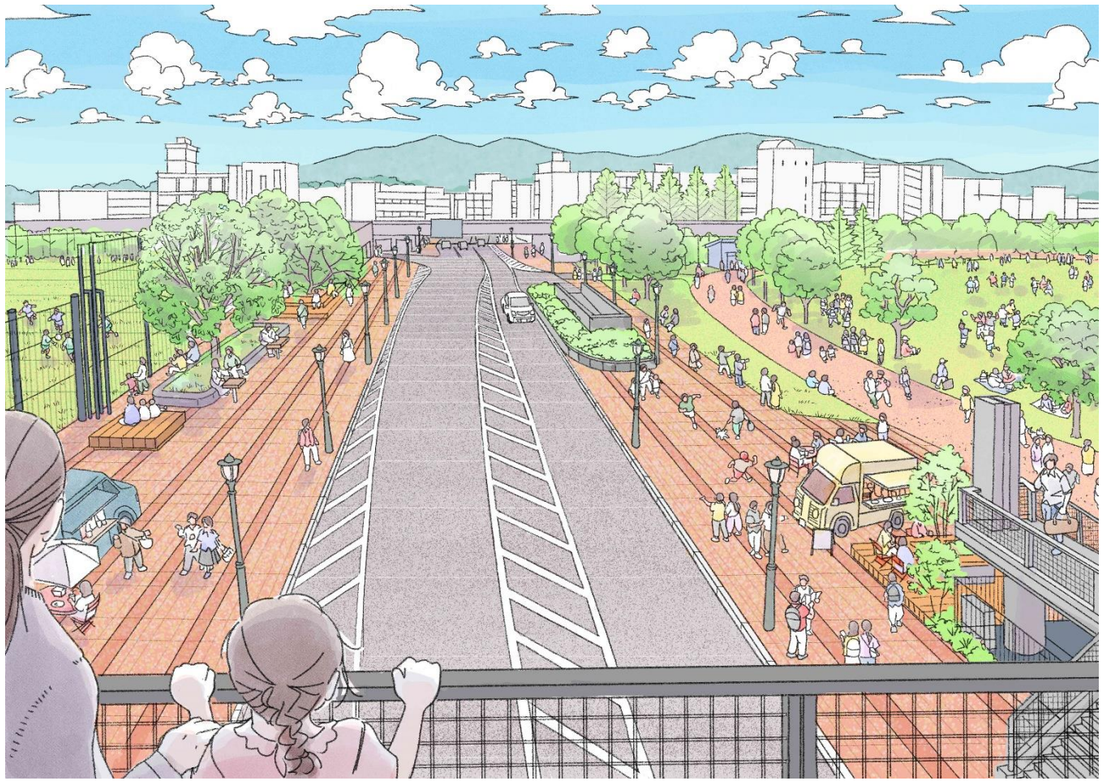
５－２．視線レベル



位置図


①【D・F ゾーン】外周路から高架橋や水辺休憩広場へ向けた視点


②【C・D ゾーン】外周路上から広場へ向けた視点


③【C ゾーン】ペデストリアンデッキから国道 206 号へ向けた視点